

* تِلْكَ الرُّسُلُ فَضَّلْنَا بَعْضَهُمْ عَلَى بَعْضٍ مِّنْهُمْ مَّنْ كَلَّمَ اللَّهُ
 وَرَفَعَ بَعْضُهُمْ دَرَجَاتٍ ۗ وَآتَيْنَا عِيسَى ابْنَ مَرْيَمَ الْبَيِّنَاتِ
 وَأَيَّدْنَاهُ بِرُوحِ الْقُدُسِ ۗ وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ مَا أَقْتَلْنَا الَّذِينَ مِنْ
 بَعْدِهِمْ مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَتْهُمُ الْبَيِّنَاتُ وَلَكِنْ اخْتَلَفُوا
 فَمِنْهُمْ مَّنْ ءَامَنَ وَمِنْهُمْ مَّنْ كَفَرَ ۗ وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ مَا أَقْتَلْنَا
 وَلَكِنْ اللَّهُ يَفْعَلُ مَا يُرِيدُ ﴿٢٥٢﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا أَنْفِقُوا
 مِمَّا رَزَقْنَاكُمْ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَ يَوْمٌ لَا بَيْعُ فِيهِ وَلَا خِلَّةٌ وَلَا
 شَفْعَةٌ ۗ وَالْكَافِرُونَ هُمُ الظَّالِمُونَ ﴿٢٥٣﴾ اللَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ
 الْحَيُّ الْقَيُّومُ لَا تَأْخُذُهُ سِنَّةٌ وَلَا نَوْمٌ ۗ لَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ
 وَمَا فِي الْأَرْضِ ۗ مَنْ ذَا الَّذِي يَشْفَعُ عِنْدَهُ إِلَّا بِإِذْنِهِ ۗ يَعْلَمُ
 مَا بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ ۗ وَلَا يُحِيطُونَ بِشَيْءٍ مِّنْ عِلْمِهِ إِلَّا
 بِمَا شَاءَ ۗ وَسِعَ كُرْسِيُّهُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ ۗ وَلَا يَئُودُهُ حِفْظُهُمَا
 وَهُوَ الْعَلِيُّ الْعَظِيمُ ﴿٢٥٤﴾ لَا إِكْرَاهَ فِي الدِّينِ ۗ قَدْ تَبَيَّنَ الرُّشْدُ مِنَ
 الْغَيِّ ۗ فَمَنْ يَكْفُرْ بِالطَّاغُوتِ وَيُؤْمِنْ بِاللَّهِ فَقَدِ اسْتَمْسَكَ
 بِالْعُرْوَةِ الْوُثْقَىٰ لَا انفِصَامَ لَهَا ۗ وَاللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ﴿٢٥٥﴾

251) アッラーは、あなたに言及されたそれらの諸使徒のうち
 の何人かを、啓示や追従者の数、地位などによって他
 者よりも恩遇した。ムーサーのようにアッラーが直接語り
 かけた者もいれば、ムハンマドのように高位を与えた者
 もいる。かれは最後の預言者として全人類に遣わされ、
 かれの国家は他のすべての共同体よりも優れたものと
 された。また、アッラーはマルヤムの子イーサーに、死者
 を生き返らせたり、らい病や盲人を治癒したりさせ、か
 れの預言者としての使命を裏付ける明確な奇跡の数々
 を与えた。そしてアッラーによる指示の達成への力添え
 として、天使ジブリールで与えた。もしアッラーが望んだ
 ならば、使徒たち後の世代の者たちは、明確なるし
 を受けた後、お互いに争ったりはしなかっただろう。しか
 し、かれらは相違し、分裂した。かれらの一部はアッラー
 を信仰し、他者はそれを拒否した。アッラーが望んだらば、
 かれらは互いに争うことはなかっただろう。しかし、ア
 ッラーは御意のまま行う。かれは慈悲と恩寵により、お望
 みの者を信仰に導くのである。そして正義と英知によっ
 て、お望みの者を迷わせる。

254) アッラーを信じ、使徒に従う者たちよ。復活の日が来
 る前に、アッラーにより与えられた、様々な合法的富を施
 すのだ。その日、人は自分に役立つものを買うこともでき
 なければ、困難な時に利益となる友情も、害から保護し
 利益をもたらす仲介者も、アッラーの御許しが無い限り
 はいない。不信仰者たちは、アッラーを否定することで過
 ちを犯している。

255) アッラーこそは崇拜に値する、唯一の同位者なき御
 方である。かれは死や欠乏と関わりなく、永存される。か
 れは自存し、被造物を必要とされない。被造物はかれを
 通してのみ存在し、常にかれを必要とする。疲れや眠り
 は、完全無欠なかれとは無縁である。かれのみが天地を
 支配し、その認可なしには誰もかれの御許において執り
 成すことはできない。かれは過去に起きたこと、そして未
 来に起きることを知り尽くす。かれの御意に適わない限
 り、被造物はかれの知識の会得をすることもない。かれ
 の玉座は天地の広さを包括し、かれにとって天地を守ることは難しくない。かれの存在と能力と権能は至高であり、かれの王権と
 支配は偉大である。

256) 誰一人として、イスラームの教えに入ることを強制されることはない。それは明白に真の教えであり、誰かがそれを信じるよう強
 制する必要もなく、真理は虚偽から明白である。そして誰であれ、アッラー以外に崇拜されるものを拒否して離れ、アッラーのみを信
 仰する者は、決して破断することのない最も堅固な救いの綱を復活の日に握る。アッラーは僕たちの言葉を聞き届け、その行いを
 熟知し、それに応じて報いるのである。

本諸節の功德:

- アッラーは、その知識と英知によって諸使徒・預言者に異なる地位を与えられた。
- アッラーは、ムーサーやムハンマドのような一部の使徒たちにもみ直接語りかけた。
- 信仰、導き、不信仰、誤謬は、すべてアッラーの御意と定めに基づいている。かれには完全なる英知が属し、もしかれが望んだのであれば、被造物全体が導かれただろう。
- 玉座の節(255節)では、アッラーの主権性(ルブービーヤ)、かれのみが崇拜されるべき権利(ウルーヒーヤ)、またその他の属性について明言されることから、クルアーンにおける最も偉大な節であるとされている。
- アッラーの道において強制力はないため、イスラームの教えに入り、ムスリムになるという行為は、誠実な受け入れと意欲に基づかなければならない。
- 現世における幸福と来世での成功を収めるための最善の方法とは、クルアーンと預言者のスンナを堅持し続けることである。

اللَّهُ وَلِيُّ الَّذِينَ آمَنُوا يُخْرِجُهُم مِّنَ الظُّلُمَاتِ إِلَى النُّورِ
 وَالَّذِينَ كَفَرُوا أَوْلِيَاؤُهُمُ الطَّاغُوتُ يُخْرِجُونَهُم مِّنَ
 النُّورِ إِلَى الظُّلُمَاتِ أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ فِيهَا
 خَالِدُونَ ﴿٢٥٧﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ حَاجَّ إِبرَهيمَ فِي رِيْبِهِ
 أَن آتَاهُ اللَّهُ الْمُلْكَ إِذْ قَالَ إِبرهيمُ رَبِّيَ الَّذِي يُحْيِي
 وَيُمِيتُ قَالَ أَنَا أُحْيِي وَأُمِيتُ قَالَ إِبرهيمُ فَإِنَّ اللَّهَ يَأْتِي
 بِالسَّمْسِ مِنَ الْمَشْرِقِ فَأْتِ بِهَا مِنَ الْمَغْرِبِ فَبُهِتَ الَّذِي
 كَفَرَ وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿٢٥٨﴾ أَو كَالَّذِي
 مَرَّ عَلَى قَرْيَةٍ وَهِيَ خَاوِيَةٌ عَلَى عُرُوشِهَا قَالَ أَنَّى يُحْيِي
 هَذِهِ اللَّهُ بَعْدَ مَوْتِهَا فَأَمَاتَهُ اللَّهُ مِائَةَ عَامٍ ثُمَّ بَعَثَهُ
 قَالَ كَمْ لَبِثْتَ قَالَ لَبِثْتُ يَوْمًا أَوْ بَعْضَ يَوْمٍ قَالَ بَل
 لَبِثْتَ مِائَةَ عَامٍ فَانظُرْ إِلَى طَعَامِكَ وَشَرَابِكَ لَمْ يَتَسَنَّهْ
 وَانظُرْ إِلَى حِمَارِكَ وَلِنَجْعَلَكَ آيَةً لِلنَّاسِ وَانظُرْ إِلَى
 الْعِظَامِ كَيْفَ نُنشِزُهَا ثُمَّ نَكْسُوهَا أَحْمًا فَلَمَّا
 بَيَّنَّ لَهُ وَقَالَ أَعْلَمْتَ أَنَّ اللَّهَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢٥٩﴾

﴿257﴾ アッラーは信仰者を庇護し、成功と勝利を与え、不信仰と無知の間から救い出し、信仰と知識の光へと導く。そして悪魔とその援助者は不信仰者の盟友であり、不信仰を美しく見せ、かれらを信仰と知識の光から不信仰と無知の暗闇へと誘い込む。かれらは火獄の住人であり、永遠にそこに留まるだろう。

言及された二つの集団については、次節でそれぞれのとえが挙げられる。

﴿258﴾ 預言者よ、アッラーの主権性と唯一性について、イブラーヒームと口論した反抗的な者の傲慢さを見たか。かれは、アッラーにより支配権が与えられたにもかかわらず、自らの立場を乱用したのだ。イブラーヒームはこう言って、かれにアッラーの特質を説明した。「私の主は被造物に生命を与え、それらを死に至らしめる御方である。」反抗的な者は頑迷に言った。「私にも生と死を与えることはできる。私は誰でも望む者を殺すことができ、そのまま生かしておくこともできる。」するとイブラーヒームはかれに対し、反論の余地のない言葉を呈した。「私が崇拝する主は、東から太陽を昇らせる御方である。あなたはそれを西から昇らせてみよ」反抗的な者は言い返すことが出来なかった。かれらの悪行と反抗により、アッラーは悪者が導かれ、かれの道を歩むことを許さない。

﴿259﴾ また、屋根が崩れ、壁が倒れ、人々が死に絶えて廃墟となった町を通り過ぎた者の例を見たか。この男は驚いて言った。「一体、アッラーがこれらの者たちを蘇らせることなどできるのだろうか。」するとアッラーはかれを死なせ、百年後に蘇らせた後、かれに聞いた。「あなたはどれ程の間死んでいたのか。」かれは答えた。「1日かそれ未満でした。」アッラーはかれに言った。「実際、あなたは百年間死んでいた。その長期間に渡り、あなたが一緒に持っていた未だに腐敗しない食物を見よ。そしてあなたの死んだロバを見よ。あなたを蘇らせたのは、われが持つ力を人々に示すための明確なしるしである。散在しているロバの骨を見よ。われはそれらを持ち上げて集め、肉をまとわせ、再び生命を与える。」かれがそれを目の当

たりにした時、現実が明らかになると、アッラーの力を理解して謙虚に言った。「私はアッラーが全能であることを知っている。」

本諸節の功德:

- 信仰者たちの際立った特徴とは、不信仰者たちとは異なり、すべての世俗的および宗教的な問題においてアッラーからの導きと洞察を授けられていることである。
- 反抗の主な原因の1つは、権力によって盲目となり、現実が見えなくなることである。
- 虚偽の人々の誤りを示すため、議論して真実を説明することは許される。
- アッラーの力は偉大であり、死者を蘇らせることも含め、あらゆることが可能である。

260 預言者よ、イブラーヒームがこう言ったときのことを思い起こすのだ。「私の主よ、死者がどのようにして生命を取り戻したのかを私に見せてください。」アッラーは言った。「あなたはそれを信じていないのか。」イブラーヒームは言った。「私は信じていますが、心の安らぎを得たいのです」。それで、アッラーはかれに指示した。「四羽の鳥を捕らえ、それらを飼い慣らすのだ。そしてそれらを切り刻み、あなたの周りの丘の上にそれぞれの鳥の断片を置き、それからそれらの鳥に呼びかけよ。あなたはそれらに生命が戻され、あなたのところに飛んで来るのを目にするだろう。イブラーヒームよ、アッラーはその支配において強大であり、その導きと法において英知溢れることを知れ。

261 アッラーの道において自らの富を施す信仰者たちの報奨のたとえは、肥沃な地に農民が植えた穀物のようなものである。この穀物は7つの穂を付け、それぞれが100の穀物を実らせる。アッラーはご自身が望む僕のうち、誰にでも報いを倍増させ、かれらに見返りなく報いを与える。アッラーは慈悲深く、寛大であり、報奨の倍増に値する者を知っている。

262 アッラーへの従順とご満悦ゆえに富を施し、その後自らの言動によって施した相手に恩を着せ、その報奨を損なわない者たちは、主からの報奨を受け取るだろう。かれらは享受する大きな恩恵により、いかなる将来への恐れも過去への悲しみも抱かないだろう。

263 信仰者を喜ばせる言葉や、無礼な者への許しは、慈善を施した相手に恩を着せることによって引き起こされる害よりも良い。アッラーはその僕を必要とはしない。かれはかれらに寛容であり、懲罰を急ぐことはない。

264 アッラーを信頼し、使徒に従う者よ。あなたの施しについて自慢し、それを与えた者を傷つけて報奨を失ってはならない。そうする者は、人々に見られて賞賛されるために施す者のようであり、アッラーと復活の日の報奨や懲罰に信仰を持っていないかのようである。これは滑らかな石の上に積もる埃のようなもので、大雨が降ると埃は洗い流され、石は何もない状態に戻る。同様に、誇示する者たちの行為と施しに対する報いは、アッラーの御許において留まることはない。アッラーはかれのご満悦につながることに不信仰者を導かず、かれらの行為や支出は利益とならない。

وَاذْ قَالَ إِبْرَاهِيمُ رَبِّ أَرِنِي كَيْفَ تُحْيِي الْمَوْتَى قَالَ أَرَأَيْتَ إِنْ مَاتَ نَحْنُ مُؤْمِنُونَ قَالَ بَلَىٰ وَلَٰكِن لِّيَطْمَئِنَّ قُلُوبِي قَالَ فَخُذْ أَرْبَعَةً مِّنَ الطَّيْرِ فَصُرْهُنَّ إِلَيْكَ ثُمَّ اجْعَلْ عَلَىٰ كُلِّ جَبَلٍ مِّنْهُنَّ جُزْءًا ثُمَّ ادْعُهُنَّ يَأْتِينَكَ سَعْيًا وَاعْلَمْ أَنَّ اللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ﴿٢٦٠﴾
 مَثَلُ الَّذِينَ يُنْفِقُونَ أَمْوَالَهُمْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنْبَتَتْ سَبْعَ سَنَابِلٍ فِي كُلِّ سَنَابِلَةٍ مِّائَةٌ حَبَّةٌ وَاللَّهُ يُضَاعِفُ لِمَن يَشَاءُ وَاللَّهُ وَسِعَ عَلَيْهِمُ ﴿٢٦١﴾ الَّذِينَ يُنْفِقُونَ أَمْوَالَهُمْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ ثُمَّ لَا يَتَّبِعُونَ مَآ أَنفَقُوا مَتًّا وَلَا أَذَىٰ لَهُمْ أَجْرُهُمْ عِنْدَ رَبِّهِمْ وَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٢٦٢﴾ قَوْلٌ مَّعْرُوفٌ وَمَغْفِرَةٌ خَيْرٌ مِّنْ صَدَقَةٍ يَتَّبِعَهَا أَذَىٰ وَاللَّهُ عَنِّي حَلِيمٌ ﴿٢٦٣﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَبْطُلُوا صَدَقَتِكُمْ بِالْمَنِّ وَالْأَذَىٰ كَالَّذِي يُنْفِقُ مَالَهُ رِئَاءَ النَّاسِ وَلَا يُؤْمِنُ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ فَمَثَلُهُ كَمَثَلِ صَفْوَانٍ عَلَيْهِ تُرَابٌ فَأَصَابَهُ وَابِلٌ فَتَرَكَهُ صَلْدًا لَا يَقْدِرُونَ عَلَىٰ شَيْءٍ مِّمَّا كَسَبُوا وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْكَافِرِينَ ﴿٢٦٤﴾

القرآن

本諸節の功德:

- 信仰と確信の段階には制限がなく、人がアッラーの普遍的な印について考えれば考えるほど、その人の信仰と確信はますます高まる。
- 被造物の死後にそれを復活されることは、アッラーの全能と完璧な偉大さの証左である。
- それが善意でなされ、侮辱や恩着せがましさを伴わない場合、アッラーの道における施しには、大きな美德と報奨がある。
- 人にできる最良の善行の一つは、良い言行を通して良い性格を示すこと、そして悪人を許すことである。

وَمَثَلِ الَّذِينَ يُنْفِقُونَ أَمْوَالَهُمْ ابْتِغَاءَ مَرْضَاتِ اللَّهِ
وَتَنْبِيئًا مِّنْ أَنفُسِهِمْ كَمَثَلِ جَنَّةٍ بِرَبْوَةٍ أَصَابَهَا وَابِلٌ
فَقَاتَتْ أَكْهَامَهَا ضَعْفَيْنِ فَإِن لَّمْ يُصِبْهَا وَابِلٌ فَطَلَّ
وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿٢٦٥﴾ أَيُودُّ أَحَدَكُمُ أَنْ تَكُونَ لَهُ
جَنَّةٌ مِّنْ نَّخِيلٍ وَأَعْنَابٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ لَهُ
فِيهَا مِنْ كُلِّ الثَّمَرَاتِ وَأَصَابَهُ الْكِبَرُ وَلَهُ ذُرِّيَةٌ
ضِعْفَاءُ فَاصْبَاهَا إِعْصَارٌ فِيهِ نَارٌ فَاحْتَرَقَتْ كَذَلِكَ
يُبَيِّنُ اللَّهُ لَكُمُ الْآيَاتِ لَعَلَّكُمْ تَتَفَكَّرُونَ ﴿٢٦٦﴾ يَا أَيُّهَا
الَّذِينَ ءَامَنُوا أَنْفِقُوا مِمَّا رَزَقْنَاكُمْ وَمِمَّا أَرْخَجْنَا
لَكُمْ مِنَ الْأَرْضِ وَلَا تَيَمَّمُوا الْخَبِيثَ مِنْهُ تُنْفِقُونَ
وَأَنْتُمْ بِآخِذِيهِ إِلَّا أَنْ تُغِضُوا فِيهِ وَاعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ غَنِيٌّ
حَمِيدٌ ﴿٢٦٧﴾ الشَّيْطَانُ يَعِدُكُمُ الْفَقْرَ وَيَأْمُرُكُمْ بِالْفَحْشَاءِ
وَاللَّهُ يَعِدُكُم مَّغْفِرَةً مِّنْهُ وَفَضْلًا وَاللَّهُ وَاسِعٌ عَلِيمٌ
﴿٢٦٨﴾ يُؤْتِي الْحِكْمَةَ مَنْ يَشَاءُ وَمَنْ يُؤْتَ الْحِكْمَةَ فَقَدْ
أُوتِيَ خَيْرًا كَثِيرًا وَمَا يَذَّكَّرُ إِلَّا أُولُو الْأَلْبَابِ ﴿٢٦٩﴾

雌牛章

45

部 3

﴿265﴾悪魔はあなた方に貧困を恐れさせ、けちを勧め、罪を犯すよう促す。アッラーは、あなた方の罪の赦しを約束し、十分な糧を授ける。アッラーは寛大に恩恵を与え、僕たちの状況を知る御方。

﴿269﴾かれは、御意に叶う僕に、一貫した言動の能力を授ける。この能力を与えられた者は、多大なる善を与えられたのだ。そして、アッラーの御光からの啓蒙と、指導からの導きを求める、健全な心を持つ者だけがかれの印に意識を向け、恩恵を授かることができるだろう。

本諸節の功德:

- アッラーの真の信仰者は、かれの約束と報奨を確信する。かれらは恐れたり悔やんだりすることなく自らの富を施す。
- 信仰者によって誠意と共に費やされたものに対する祝福は、アッラーによる慈悲であり恩恵である。
- 最大の敗者とは、自らの善行をひけらかす者である。なぜなら、かれがその報奨として受け取るのは、人による称賛だけだからである。

﴿265﴾アッラーの約束を心に確信し、アッラーのご満悦を求めて自らの富を施す信仰者のたとえは、大雨により倍の収穫を生み出す肥沃な高地の庭園のようなものである。土地は肥沃であるため、大雨が降らずとも小雨でも十分である。同様に、誠実な者たちによって費やされた小さな施しは、アッラーによって受け入れられ、その報奨は倍増される。アッラーはあなた方の行いを見ている。かれは誰が誠実で誰がそうでないかを知っており、それに応じて報いる。

アッラーは次節で、ひけらかすためにその富を施す者のたとえを挙げている。

﴿266﴾あなた方は甘美な川が流れ、ナツメヤシや葡萄を始めとしたあらゆる種の良質な果実が生い茂る庭園を望まないか。庭園の所有者が老齢となって仕事の収入が得られなくなり、働くことのできない子供たちがいるとき、最も困る時期にこの庭園に強風が吹き荒れ、完全に燃え尽きてしまう。これが、自らの富をひけらかすために施す者の状況のたとえである。それで復活の日にアッラーの御前に来るとき、かれには最も必要としている善行がない。このように、アッラーは現世と来世であなた方にとって何が有益になるかを説明し、熟考を促す。

﴿267﴾アッラーを信頼し、使徒に従う者よ。あなた方が得た純粋で健全な富と、われらが地上から芽生えさせた作物の中から施すのだ。施すために劣るものを探してはならない。もしそれがあなた方に与えられたとしても、質が悪ければそれをすすんで使いはしないだろう。それでは、あなた方はいかに、自分自身受け付けられないようなものをアッラーに差し出すことで満足できようか。アッラーは、あなた方の施しを必要とはしないことを知るのだ。そしてかれは、その本質と行いにおいて称賛されるべき御方。

次節では、純粋なものを施すよう指示した後、アッラーは悪魔の計画と囁きかけについて警告する。

وَمَا أَنْفَقْتُمْ مِنْ نَفَقَةٍ أَوْ نَذَرْتُمْ مِنْ نَذْرٍ فَإِنَّ اللَّهَ يَعْلَمُهَا وَمَا لِلظَّالِمِينَ مِنْ أَنْصَارٍ ﴿٧٥﴾ إِنْ تَبَدُّوا
 الصَّدَقَاتِ فَنِعِمَّا هِيَ وَإِنْ تُخْفُوهَا وَتُؤْتُوهَا
 الْفُقَرَاءَ فَهُوَ خَيْرٌ لَكُمْ وَيُكَفِّرْ عَنْكُمْ مِنْ
 سَيِّئَاتِكُمْ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿٧٦﴾ * لَيْسَ
 عَلَيْكَ هُدَاهُمْ وَلَكِنَّ اللَّهَ يَهْدِي مَنْ يَشَاءُ وَمَا
 تُنْفِقُوا مِنْ خَيْرٍ فَلَا نَنْفُسُكُمْ وَمَا تُنْفِقُونَ إِلَّا
 ابْتِغَاءَ وَجْهِ اللَّهِ وَمَا تُنْفِقُوا مِنْ خَيْرٍ يُوَفِّ إِلَيْكُمْ
 وَأَنْتُمْ لَا تظَلَمُونَ ﴿٧٧﴾ لِلْفُقَرَاءِ الَّذِينَ أُحْصِرُوا
 فِي سَبِيلِ اللَّهِ لَيْسَ عَلَيْهِمْ جُزَاءٌ فِي الْأَرْضِ
 يَحْسَبُهُمُ الْجَاهِلُ أَغْنِيَاءَ مِنَ التَّعَفُّفِ تَعْرِفُهُمْ
 بِسِيمَاهُمْ لَا يَسْأَلُونَ النَّاسَ إِلْحَافًا وَمَا تُنْفِقُوا مِنْ
 خَيْرٍ فَإِنَّ اللَّهَ بِهِ عَلِيمٌ ﴿٧٨﴾ الَّذِينَ يُنْفِقُونَ أَمْوَالَهُمْ
 بِاللَّيْلِ وَالنَّهَارِ سِرًّا وَعَلَانِيَةً فَلَهُمْ أَجْرُهُمْ عِنْدَ
 رَبِّهِمْ وَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٧٩﴾

سورة
البقرة

270 あなた方がアッラーのご満悦を求めて施すもの、または自発的にアッラーのために果たした誓いは、いかに小さなものであれ、アッラーはそれを知っており、少しも無駄に失われることはない。かれはあなた方に対し、更なる報奨を与える。義務を果たさずにアッラーの制限を超えて不義を犯す者たちが、復活の日の懲罰から救われることは無い。

271 あなた方が施しを公にすれば、それは善いことである。しかし、隠れて貧者に施すなら、それは公にするよりも尚良く、誠実である。慈善は、罪が隠され赦される手段となる。アッラーはあなた方の行いや状況を知り尽くし、何一つとしてアッラーから隠されることはない。

272 預言者よ、あなたにはかれらに真実を信じさせ、それに追従させる責任はない。あなたの義務は、かれらを真実に導き、それを説明することである。真実に導くことができるのはアッラーだけ。そして御意にかなう者は誰であれ導く。あなたが施すあらゆる善きものは、あなたのもとに戻って来る。アッラーはそれを必要とはしない。それゆえ、あなたはアッラーのために施すのだ。真の信仰者はアッラーのご満悦を得るためだけに施す。あなたが施すすべての善きものは、それがどんなに少かるうと、あなたは完全な報奨を受け取り、誰一人として不当な扱いを受けることはない。

アッラーはかれの道における施しについて述べ、信仰者をそうするよう促した後、次の節で施しの対象について説明する。

273 あなた方は、アッラーの道に専心する、移動手段や稼ぎのない貧者のために施すべきである。かれらは物乞いをしないため、無知な者にはかれらが困窮している様には見えないだろう。しかし、かれらの身体や衣服には明らかな兆候がある。かれらはしつこく懇願する他の貧者たちとは異なる。アッラーはあなたが施すどんな善または富も知っている。そしてあなた方に対し、多大なる報奨を与える。

274 ひけらかしたり、名声を求めたりすることなく、昼夜を問わず、密かにそして公にアッラーのために富を施す者たちは、復活の日に報奨を得る。アッラーの恩恵と祝福により、かれらには将来への憂いもなければ、現世の過ぎ去ったことに対する悲しみも一切ないのである。

本諸節の功德:

- 信仰者が施しと慈善に誠実であるなら、それを公にしたり隠したりしても害はないが、隠す方にはより大きな報奨がある。
- 信仰者は、人々に物乞いすることの出来ない困窮者たちに注意を向けるよう呼びかけられている。
- いつであれ、アッラーの道において施すのであれば、それにより現世と来世で大きな報奨がもたらされると約束される。

الَّذِينَ يَأْكُلُونَ الرِّبَا لَا يَقُومُونَ إِلَّا كَمَا يَقُومُ الَّذِي
يَتَخَبَّطُهُ الشَّيْطَانُ مِنَ الْمَسِّ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَالُوا إِنَّمَا الْبَيْعُ
مِثْلُ الرِّبَا وَأَحَلَّ اللَّهُ الْبَيْعَ وَحَرَّمَ الرِّبَا فَمَنْ جَاءَهُ
مَوْعِظَةٌ مِنْ رَبِّهِ فَاتَّهَىٰ فَلَهُ مَا سَلَفَ وَأَمْرُهُ إِلَى اللَّهِ وَمَنْ
عَادَ فَأُولَٰئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٢٧٥﴾ يَمْحُو
اللَّهُ الرِّبَا وَيُرِي الصَّدَقَاتِ وَاللَّهُ لَا يُحِبُّ كُلَّ كَفَّارٍ أَثِيمٍ
﴿٢٧٦﴾ إِنَّ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَأَقَامُوا الصَّلَاةَ
وَأَتَوْا الزَّكَاةَ لَهُمْ أَجْرُهُمْ عِنْدَ رَبِّهِمْ وَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ
وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٢٧٧﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا اتَّقُوا اللَّهَ
وَدَرُوا مَا بَقِيَ مِنَ الرِّبَا إِن كُنْتُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿٢٧٨﴾ فَإِن لَّمْ تَفْعَلُوا
فَأَذْنَابُ بَحْرٍ مِّنَ اللَّهِ وَرَسُولِهِ وَإِن تُبْتُمْ فَلَكُمْ زُجُجٌ وَسْ
أَمْوَالِكُمْ لَا تُظْلَمُونَ وَلَا تُظْلَمُونَ ﴿٢٧٩﴾ وَإِن كَانَ
ذُو عُسْرَةٍ فَنَظِرَةٌ إِلَىٰ مَيْسَرَةٍ وَأَن تَصَدَّقُوا خَيْرٌ لَّكُمْ
إِن كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿٢٨٠﴾ وَاتَّقُوا أَيَّامًا تَرْجِعُونَ فِيهِ إِلَى
اللَّهِ ثُمَّ تُوَفَّىٰ كُلُّ نَفْسٍ مَّا كَسَبَتْ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ﴿٢٨١﴾

アッラーはムスリム間の相互扶助としてかれの道への施しを奨励した後、かれらがその反対の行為である利子に関与することを禁じる。かれは述べる。

﴿275﴾ 利息を搾取る者たちは、悪魔に取り憑かれた者たちのように、復活の日に墓から起き上がる。かれらは墓から出てくるやいなや、てんかん持ちの様に倒れ落ちる。これはかれらが利息を許容し、商取引を通して得られる利息の点でアッラーが認めたものと利息とを区別しなかったからである。かれらは、「商売は利息のようなもの」と主張し、どちらも富の増加につながる合法的なものとした。アッラーはかれらの主張に反駁し、商売における一般的な利益を許可したと述べ、利息は抑圧的で人々の富を搾取するため禁じている。アッラーの禁じられた命令を受けて警告を受けた後、利息を止め、罪を悔い改めた者は、過去に受け取った利息を罪なく保持できる。それ以降のかれの行いに対し、アッラーは裁かれる。禁止であると知った後に利息の搾取に戻る者は誰であれ、地獄の業火入りとそこでの永住に値する。永久に地獄の業火に留まるといふ言及は、アッラーの唯一性を信仰する者たちにとっては長期間であり、不信仰者だけが地獄の業火の中に永久に留まる。

アッラーはかれゆえの施しについて、そして利息の搾取について述べた後、次にそれぞれの異なる結末を述べる。

﴿276﴾ アッラーは利息を破滅させるか、その取引の祝福を取り除くことによって利息を一掃する。一方で、施しの報奨を10倍から最大700倍、あるいはそれ以上に増加させ、自らの富を施す者たちを祝福する。アッラーは、禁じられたものを合法とみなし、罪に固執する頑迷な不信仰者を愛されない。

﴿277﴾ アッラーを信仰し、使徒に追従し、善行を行い、礼拝の務めを守り、困窮者にザカート(義務の喜捨)を施す者たちは、主の報奨を受け、将来に対するいかなる恐れも、過去に過ぎ去った現世の出来事に対するいかなる

悲しみも持たない。

﴿278﴾ アッラーを信仰し、使徒に追従する者たちよ。アッラーの命令を果たし、禁じられたことを避けてかれを畏怖するのだ。アッラーへの真の信仰があり、禁じられた利息を避けるのなら、人々に利息の残高の支払いを求めてはならない。

﴿279﴾ あなたがたがアッラーの法に従わないならば、アッラーとその使徒による宣戦を覚悟せよ。アッラーに対して悔悟し、利息を止めるなら、あなたがたは元金を資本からの貸付とすることができる。元金以上を取り立てて他者を侵害することも、それ以下で自らの損害を出すこともない。

﴿280﴾ 借金の返済を要求する者が困難な状況にあり、返済ができないのであれば、容易に返済ができるようになるまで請求を遅延せよ。もしあなたがたが、アッラーの御許におけるその価値を知るなら、返済を帳消しにしてやるか、返済の一部を放棄して施しするのであれば、なお良いのだ。

﴿281﴾ あなたがた全員が、アッラーの御許に帰り、かれの御前に立たなければならない日の懲罰を意識せよ。人は皆、あらゆる善悪の行いの報いが与えられる。行った善行よりも少ない報奨が与えられたり、行った悪行よりも多くの懲罰が与えられたりする不正はない。

本諸節の功德:

- 最も重い罪の一つは利息の搾取であり、そうする者に対し、アッラーはかれと使徒による宣戦をする。
- 商取引においてアッラーの法に従うことは、祝福と成長をもたらす。
- 金銭的な困窮者を容赦し、借金の一部または全額を放棄することによって物事を容易にすることは美德である。

يَتَأَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا إِذَا تَدَايَنْتُمْ بِدَيْنٍ إِلَىٰ أَجَلٍ مُّسَمًّى فَاكْتُبُوهُ وَلْيَكْتُب بَيْنَكُمْ كَاتِبٌ بِالْعَدْلِ وَلَا يَأْبَ كَاتِبٌ أَنْ يَكْتُبَ كَمَا عَلَّمَهُ اللَّهُ فَلْيَكْتُبْ وَلْيَمْلِكِ الَّذِي عَلَيْهِ الْحَقُّ وَلْيَتَّقِ اللَّهَ رَبَّهُ وَلَا يَبْخَسْ مِنْهُ شَيْئًا فَإِنْ كَانَ الَّذِي عَلَيْهِ الْحَقُّ سَفِيهًا أَوْ ضَعِيفًا أَوْ لَا يَسْطِيعُ أَنْ يُمِلَّ هُوَ فُلْيَمْلِكْ وَلِيَهُ بِالْعَدْلِ وَأُسْتَشْهِدْ وَأَشْهِدَيْنِ مِنْ رَجَالِكُمْ فَإِنْ لَمْ يَكُنَا رَجُلَيْنِ فَرَجُلٌ وَأَمْرَاتَانِ مِمَّنْ تَرْضَوْنَ مِنَ الشُّهَدَاءِ أَنْ تَضِلَّ إِحْدَاهُمَا فَتُذَكَّرَ إِحْدَاهُمَا الْأُخْرَىٰ وَلَا يَأْبَ الشُّهَدَاءُ إِذَا مَا دُعُوا وَلَا تَسْمَعُوا أَنْ تَكْتُبُوهُ صَغِيرًا أَوْ كَبِيرًا إِلَىٰ أَجَلِهِ ذَٰلِكُمْ أَقْسَطُ عِنْدَ اللَّهِ وَأَقْوَمُ لِلشَّهَادَةِ وَأَدْنَىٰ أَلَّا تَرْتَابُوا إِلَّا أَنْ تَكُونَ تِجَارَةً حَاضِرَةً تُدِيرُونَهَا بَيْنَكُمْ فَلَيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ أَلَّا تَكْتُبُوهَا وَأَشْهِدُوا إِذَا تَبَايَعْتُمْ وَلَا يُضَارَ كَاتِبٌ وَلَا شَهِيدٌ وَإِنْ تَفَعَّلُوا فِإِنَّهُ فُسُوقٌ بِكُمْ وَاتَّقُوا اللَّهَ وَيُعَلِّمُكُمُ اللَّهُ وَاللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٢٨٢﴾

②⑧ アッラーを信仰し、使徒に追従する者よ。一定期間お互いに融資をするときなど、期間を定めて貸し借りを含み取引をするときは、それを書き留めよ。代書人がそれを公正に、そしてアッラーの法に従って書き留めるべきであり、負債の記述を拒むべきではない。そしてかれに記述させ、債務者に口述させよ。かれにはアッラーを意識させ、負債の価値や説明を僅かでも省いてはならない。もしも債務者に取引の経験がないか、未成年か、精神病者か、または何らかの理由で口がきけない場合、その公式な保護者が公平を期して口述すべきである。また、証人として2人の健全かつ誠実な者を立てよ。2人の男性が見つからない場合、1人の男性と、宗教と誠実さが認められている2人の女性を立てるのだ。それは一方の女性が忘れた場合、もう一方の女性が彼女に思い出させるためである。証人は負債の証人となることを拒めず、必要とされれば証言しなければならない。負債の額がどれ程小さくとも、記述を怠ってはならない。それによりアッラーの法に忠実であり、証拠としての信頼性が高まると共に、負債の種類、金額または期間についての疑いが取り除かれる。しかし、取引がその場での直接的な受け渡しである場合、記述せずとも害はない。係争が起きないよう、証人を立てることは法的に定められている。証人や代書人に害を及ぼすことは違法である。また、証言や立証を要求した者に害を加えてもならない。誰であれ害を及ぼすならば、アッラーの法に反している。信仰者たちよ、主の指示を守り、主の禁じられたことを避けることによって、アッラーを意識せよ。アッラーは、現世と来世で最善ものをあなた方に説く。アッラーはすべてを知り尽くしており、かれから隠されたものは何もない。

本諸節の功德:

- 不一致や係争を防ぐために、負債とすべての商取引を記録する必要がある。
- 負債およびあらゆる種類の貸し借りを含み取引には、固定期間が必要である。
- アッラーの法は、社会的弱者への後見を命じる。
- 負債や権利については、証言のできる証人が必要とされる。
- 最善の方法は、代書人が取引に関わる正しい用語を的確に使用することである。
- 債務や権利の記録において、債権者側も、そしてそれを記録して証言する側も、誰一人として害を受けるべきではない。

وَإِنْ كُنْتُمْ عَلَى سَفَرٍ وَلَمْ تَجِدُوا كِتَابًا فَرِهَانَ مِقْبُوضَةً
 فَإِنْ أَثِمَ بَعْضُكُمْ بِبَعْضٍ فَيُوَدِّدُ الَّذِي آوَتْ مِنْ أَمْنَتِهِ وَيَلْتَقِ
 اللَّهَ رَبَّهُ وَلَا تَكْتُمُوا الشَّهَادَةَ وَمَنْ يَكْتُمْهَا فَإِنَّهُ
 عِندَ اللَّهِ قَلْبُهُ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ عَلِيمٌ ﴿٢٨٣﴾ اللَّهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ
 وَمَا فِي الْأَرْضِ وَإِنْ تُبَدُّوا مَا فِي أَنْفُسِكُمْ أَوْ تُخْفَوُوهُ
 يُحَاسِبْكُمْ بِهِ اللَّهُ فَيَغْفِرْ لِمَنْ يَشَاءُ وَيُعَذِّبْ مَنْ يَشَاءُ
 وَاللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢٨٤﴾ ءَأَمِنَ الرَّسُولُ بِمَا أُنزِلَ إِلَيْهِ
 مِنْ رَبِّهِ ءَوَالْمُؤْمِنُونَ كُلُّ ءَأَمِنَ بِاللَّهِ وَمَلَكَاتِهِ
 وَكُتُبِهِ ءَوَرُسُلِهِ ءَلَا نَفِرُّ بَيْنَ أَحَدٍ مِنْ رُسُلِهِ ءَوَقَالُوا
 سَمِعْنَا وَأَطَعْنَا غُفْرَانَكَ رَبَّنَا وَإِلَيْكَ الْمَصِيرُ ﴿٢٨٥﴾ لَا يَكْفُرُ
 اللَّهُ نَفْسًا إِلَّا أَوْسَعَهَا إِيَّاهَا مَا كَسَبَتْ وَعَلَيْهَا مَا كَسَبَتْ
 رَبَّنَا لَا تُؤَاخِذْنَا إِنْ نَسِينَا أَوْ أَخْطَأْنَا رَبَّنَا وَلَا تَحْمِلْ
 عَلَيْنَا إَصْرًا كَمَا حَمَلْتَهُ عَلَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِنَا رَبَّنَا
 وَلَا تُحْمِلْنَا مَا لَا طَاقَةَ لَنَا بِهِ ءَوَاعْفُ عَنَّا وَاعْفِرْ لَنَا
 وَأَرْحَمْنَا أَنْتَ مَوْلَانَا فَانصُرْنَا عَلَى الْقَوْمِ الْكَافِرِينَ ﴿٢٨٦﴾

283 旅行中で負債を記録できる代書人が誰もいない場合、債権者に対して負債の返済ができるようになるまで、担保を与えることができる。お互いに信頼し合うなら、負債を書き留めたり、証人と呼んだり、約束をしたりする必要はない。その場合、負債は債務者の責任となり、アッラーを意識し、返済を履行し、それを否定してはならない。後になってそれを否定するなら、取引の際に立ち会った者が証言しなければならず、それを隠してはならない。誰でもあれ証言を隠蔽するのであれば、その心は罪深い。アッラーはあなた方の行いを知っており、かれから隠されるものは一切なく、あなた方の行いに応じて報いる。

284 天地のあらゆるものは、アッラーに属する。かれはそのすべてを創造し、所有し、支配する。心の中にあるものを見せるか隠すかにかかわらず、アッラーはそれについて知り、あなた方はその責任を問われる。またその寛大さと慈悲により、望まれる者は誰でもあれ赦し、その英知と正義により、望まれる者は誰でもあれ罰する。アッラーは全能である。

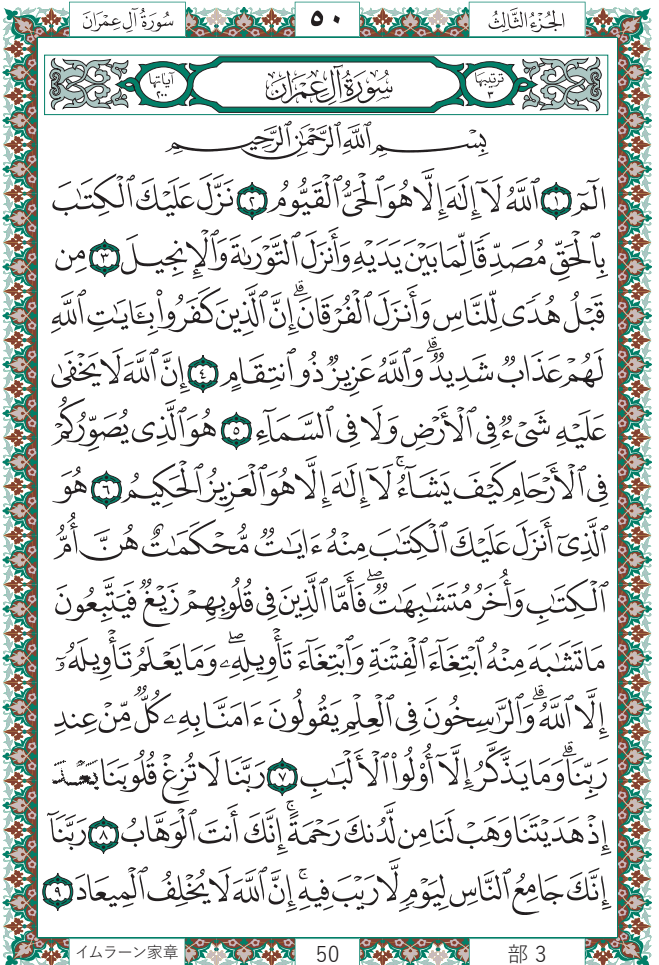
285 預言者ムハンマドは、主によって啓示されたすべてのことを信じ、信仰者たちも同じである。かれらは皆、アッラー、天使たち、諸預言者に啓示されたすべての啓典、およびかれが遣わしたすべての使徒たちを信じる。そしてかれらは諸使徒を分け隔てることなく信じる。かれらは言う。「私たちはあなたの指示と禁止を聞きました。そして私たちはあなたによる指示と、あなたによる禁止を守ることによってあなたに従います。主よ、私たちを赦してくるよう、あなたにお願いします。私たちのあらゆる諸事は、あなたにこそ帰り着くのです。」

286 アッラーは誰一人にも、能力を超える重荷を負わせない。アッラーの教えは容易さに基づいており、困難には基づかない。誰でもあれ善を尽くした場合、その報奨を全て受ける。また誰でもあれ悪を犯した場合、その懲罰を

受けるのであり、誰も他者の罪を引き継ぐことはない。使徒と信仰者たちは言った。「主よ、私たちが何かを忘れたり、意図せず何かを発言したりしても、私たちを罰さないでください。主よ、私たちが以前にあなたがその過ちによって罰せられた者たちのように、私たちにとって困難なことや、できないようなことで重荷を負わせないでください。また私たちの能力が及ばず、私たちが成し遂げることができないような指示や禁止を私たちに与えないでください。あなたの慈悲によって私たちの罪を消し、私たちを赦し、私たちに憐れみをかけてください。あなたは私たちの庇護者であり、援助者です。そして、不信仰者たちに対して私たちをお助けください。」

本諸節の功德:

- 負債の記録が不可能であれば、契約当事者同士が互いを信頼している場合に限り、権利保障の約束ができる。
- 証言の隠蔽は禁じられ、それは罪となる。
- 全被造物に対するアッラーの知識と意識は完璧である。かれは、すべての人々の行いに対する責任を問うことが可能である。
- 信仰の支柱と基礎の確認と説明。
- イスラームの教えは容易さ、そして害悪と困難の除去に基づいている。アッラーは人々に可能な範囲内で負担をかけるのみであり、できないことに対して責任を負わせることはない。



本章の趣旨:

啓典の民が投げかける疑念への反論かつ信者への確証として、イスラームという宗教こそが真理の教えであることの確証。

説明:

本章はマディーナ啓示。章名の由来は、第33節目においてイムラーン家が言及されているため。

① 「アリアフ・ラーム・ミーム」という分断されたアラビア文字については、雌牛章の第1句を参照。

② 唯一なるアッラー以外に、真に崇拜すべき存在はない。死もいかなる欠陥もない、完全なる生によって永生するお方。いかなる被造物も必要とはしない、自存するお方。全ての被造物はかれゆえに存在出来るのであり、いかなる時でもかれを必要とする。

③-④ 預言者よ、かれはあなたにクルアーンを啓示した。それは真実であり、その諸規定は公正である。クルアーンがそれ以前の諸啓典と矛盾するところは何一つない。また、かれはあなたにクルアーンを啓示する以前、ムーサーには律法書を、イーサーには福音書を啓示した。これらの啓典は全て、宗教とこの世の諸事における正しい状態へと人々を導くものである。またかれは、真理を虚妄から、導きを迷いから分ける、識別の書を啓示した。あなたに下されたアッラーの印を拒否する者たちには、厳しい懲罰がある。アッラーは偉大なお方。かれの使徒たちを嘘つきとする者に対して、復讐するお方である。

⑤ 天地にあるいかなるものも、アッラーからは隠れられない。かれの知識は全てのものに及んでいる。

⑥ かれはあなたがたを母親の胎内で、男性か女性か、美しいか醜いか、白いか黒いかと、様々な形に創造するお方。かれの他、真に崇拜すべき存在などない。かれは偉大なお方、その創造、采配、法において英知あるお方。

⑦ 預言者よ、かれはあなたに、クルアーンを啓示したお方。その中には意味の明らかな節があるが、それこそは啓典の根幹であり、その大半を占めるもの。解釈の違いの折には、そこへと立ち返る典拠である。他方クルアーンの中には、多くの人にとって意味が難しく、複数の意味に解釈可能な節もある。心が真理から遠ざかっている者たちは、啓典の根幹となる節をそっこのけにして、分り辛くあいまいな節に頼ろうとする。かれらは疑念を煽って人々を迷わせ、自分たちの間違ったやり方に合うような、私欲に則った解釈を望んでいる。しかし、これらの節の真の意味を知るのは、アッラーのみ。知識ある者たちは言う。「わたしたちはクルアーンを全て信じる。それは全て、主からのものであるから。」かれらはあいまいな節を、啓典の根幹である節によって解釈する。正しい理性の持ち主しか、教訓を受けることはない。

⑧ また、かれら知識ある者たちは言う。「主よ、わたしたちを一旦導いた後、真理から遠ざけないで下さい。真理から遠ざかった者たちを襲った物事から、わたしたちを守り下さい。わたしたちを導き、迷いから守ってくれる大きなお慈悲をお授け下さい。あなたは、豊かに贈与するお方であられます。

⑨ 主よ、あなたは疑念のない日に、全ての人を清算のためにあなたへとお集めになるお方。その日は間違いなく到来します。本当にあなたは約束を破ることがありません。」

本諸節の功德:

- アッラーは真理へと導き、虚妄を警告すべく、使徒たちを遣わし、啓典を下した。それを被造物に対する証拠とし、弁解の余地がなくなるようにしたのである。
- 被造物を網羅するアッラーの完全なる知識。天地のいかなるものも、かれから隠れることは出来ない。
- 知識ある信者たちの基本は、クルアーンの節のあいまいな部分を、意味の明確な部分によって解釈することである。
- アッラーと真理において堅固であること、正しい導きを祈ることの勧め。それは特に試練や欲望に襲われている時に強調される。

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا لَنْ تُغْنِيَ عَنْهُمْ أَمْوَالُهُمْ وَلَا أَوْلَادُهُمْ
 مِنْ اللَّهِ شَيْئًا وَأُولَئِكَ هُمْ وَقُودُ النَّارِ ﴿١٠﴾ كَذَابٌ ءَالٍ
 فِرْعَوْنَ وَالَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا فَآخَذَهُمُ اللَّهُ
 بِذُنُوبِهِمْ وَاللَّهُ شَدِيدُ الْعِقَابِ ﴿١١﴾ قُلْ لِلَّذِينَ كَفَرُوا
 سَعَابُونَ وَتُحْشَرُونَ إِلَىٰ جَهَنَّمَ وَبِئْسَ الْمِهَادُ ﴿١٢﴾
 قَدْ كَانَتْ لَكُمْ آيَةٌ فِي فَعْتَبٍ التَّقَاتِفَةُ تُقْتَلُ فِي
 سَبِيلِ اللَّهِ وَأُخْرَىٰ كَافِرَةٌ يَرَوْنَهُمْ مِثْلَهُمْ رَأَىٰ
 الْعَيْنِ وَاللَّهُ يُؤَيِّدُ بِنَصَرِهِ مَنْ يَشَاءُ إِنَّ فِي ذَلِكَ
 لَعِبْرَةً لِّأُولِي الْأَبْصَارِ ﴿١٣﴾ زَيْنَ اللَّتَاسِ حُبُّ الشَّهَوَاتِ
 مِنَ النِّسَاءِ وَالْبَنِينَ وَالْقَنَاطِيرِ الْمُقَنْطَرَةِ مِنَ الذَّهَبِ
 وَالْفِضَّةِ وَالْخَيْلِ الْمُسَوَّمَةِ وَالْأَنْعَمِ وَالْحَرْثِ ذَلِكَ
 مَتَاعُ الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَاللَّهُ عِنْدَهُ حُسْنُ الْمَتَابِ ﴿١٤﴾ * قُلْ
 أَوْبَيْتُكُمْ بِخَيْرٍ مِّنْ ذَٰلِكُمْ لِلَّذِينَ اتَّقَوْا عِنْدَ رَبِّهِمْ
 حَتَّىٰ تَجْرَىٰ مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا وَذَوُجٌ
 مُّطَهَّرَةٌ وَرِضْوَانٌ مِّنَ اللَّهِ وَاللَّهُ بَصِيرٌ بِالْعِبَادِ ﴿١٥﴾

الحزب
٣

⑩使徒よ、言え。「そのような欲望よりも、よいものについて聞かせようか？アッラーに服従し、罪を避けることによってかれを畏れる者には、天国がある。その城郭と木々の下からは河川が流れている。その住人は永久にそこに留まり、死ぬことはない。

かれらにはそこで、内面的にも外面的にも、あらゆる欠陥から無縁で清浄な妻たちがいる。その上、かれらにはアッラーのご満悦がもたらされ、お怒りが降りかかることはない。アッラーは僕たちをご覧になるお方であり、何もかれから隠れることは出来ない。アッラーはかれらに報いるのだ。」

本諸節の功德:

- 復活の日、不信者たちの財産と子供に対する自惚れは、アッラーからの懲罰が降りかかった時、何の役にも立たない。
- 真の勝利は、数や物によるものではなく、アッラーの援助によるものである。
- アッラーは現世における各種の欲望が、人々にとって輝かしく見えるものとした。それはかれらへの試練であり、またアッラーの定めた決まりを守るかどうかを見定めるためである。
- 現世のあらゆる欲望と享樂は、わずかなものであり、消え去ってしまうものである。それらは来世における永遠の偉大な安樂とは、比べものにならない。

⑩アッラーとその使徒を拒否する者の財産や子孫がアッラーの懲罰から守られることはない。それは現世でも来世でも同様である。そのような者たちは、復活の日に地獄の燃料となる。

⑪不信者たちの状態はフィルアン(ファラオ)の一族や、それ以前にアッラーを拒否し、その印を嘘とした者たちの状態と同様である。アッラーはかれらをその罪ゆえに罰したのであり、かれらの財産や子孫が役に立つことはなかった。アッラーはかれを拒否し、その印を嘘とした者に対し、厳しい懲罰のお方。

⑫使徒よ、不信者たちに、言え。「信者はあなたがたに勝利し、あなたがたは不信のまま死ぬだろう。アッラーはあなたがたを地獄の炎に集合させるのだ。それは何とひどい寝床であろうか。」

⑬バドルの日の戦いで対面した二つの集団には、あなたがたにとっての教訓があった。一方は信者、つまりアッラーの使徒とその教友たちであった。かれらはアッラーの道のために、戦った。もう一方は不信者の集団であり、見栄と部族主義を掲げた、マッカの不信者たちであった。信者たちの目にはかれらが倍に見えたが、アッラーはかれの支持者たちを援助した。本当にその中には、眼識ある者たちにとっての教訓がある。勝利はたとえ無勢であったとしても信仰の徒のものであり、敗北は多勢であったとしても虚妄の徒のものである。

⑭アッラーは人々への試練として、この世の欲望を美しく見せた。女性、子供、金銀からなる莫大な財産、印のついた美しい馬、ラクダ、牛、羊などの家畜、農作物は、いつかは消え行く現世の生活の楽しみでしかない。だから信者はそれらのものに執着すべきではない。アッラーの御許にこそは、天地の広さほどもある天国という、よい帰り所があるのだから。

الَّذِينَ يَقُولُونَ رَبَّنَا إِنَّنَا أَمَتَا فَأَغْفِرْ لَنَا ذُنُوبَنَا
وَقِنَا عَذَابَ النَّارِ ﴿٥٦﴾ الصَّادِقِينَ وَالصَّادِقَاتِ وَالْمُتَّقِينَ وَالْمُتَّقَاتِ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٥٧﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٥٨﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٥٩﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٠﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦١﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٢﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٣﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٤﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٥﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٦﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٧﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٨﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٦٩﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٠﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧١﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٢﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٣﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٤﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٥﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٦﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٧﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٨﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٧٩﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٠﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨١﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٢﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٣﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٤﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٥﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٦﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٧﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٨﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٨٩﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٠﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩١﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٢﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٣﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٤﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٥﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٦﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٧﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٨﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿٩٩﴾ وَالَّذِينَ هُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ وَهُمْ يُقِيمُونَ ﴿١٠٠﴾

16 天国の民とは、主にこのように祈って唱える者たちである。「主よ、わたしたちはあなたと、あなたが使徒たちに下したものを信じ、あなたの法に従いました。ですから、わたしたちの犯した罪を赦し、わたしたちを地獄の炎から遠ざけて下さい。」

17 また、かれらは服従行為を行い、悪行を避け、降りかかった試練において忍耐強い者たち。正直であり、アッラーに完全に従う者たち。かつ財産をアッラーの道のために費やし、夜の終わりに罪の赦しを乞う者たちである。その時間帯において、祈りは最も受け入れられやすい。

18 アッラーは、かれの神性を示す諸々の印によって、ご自身が真に崇拝に値するお方であることを証言する。諸天使もそれを証言し、学識ある者たちもまた、アッラーの唯一性の説明と、そこへの誘いによって、それを証言する。かれらはアッラーの唯一性と、創造・采配・法規定におけるアッラーの公正さという、最も偉大な証言によって証言するのである。偉大なお方、その創造、采配、法規定において英知あるお方であるかれ以外、崇拝すべき存在はない。

19 アッラーの御許で受け入れられる宗教とは、イスラームである。それはアッラーのみに従い、使徒ムハンマドに至るまでの全使徒を信仰することである。かれは最後の使徒であり、かれがもたらした法以外は受け入れられない。ユダヤ教徒もキリスト教徒も、自分たちの宗教において意見を違わせ、党派に分裂したが、それは使徒がかれらにもたらした証拠が示された後のことであり、嫉妬と、現世への執着心のせいであった。アッラーがその使徒に下した印を拒否する者があっても、アッラーはかれを拒否し、その使徒たちを嘘つきとする者に対して、清算の速いお方。

20 使徒よ、あなたに下された真理において、かれらがあなたに議論してきたら、こう答えよ。「わたしと、わたしに従った信者たちはアッラーに服従した。」そして啓典の民と多神教徒に言うのだ。「あなたがたはアッラーに純粋に服従し、わたしがもたらしたものに従ったのか？」かれらがそうしたのなら、導きの道を進んだことになる。かれらがイスラームから背いたとしても、あなたはただ自分のメッセージをかれらに伝達するだけ。かれらのことは、アッラーに委ねられる。かれこそはその僕をご覧になり、全ての行いに対して報いるお方。

21 アッラーがかれらに対して下した証拠を拒否し、その預言者たちを殺し、公正や良識を命じ、邪悪を禁じる者たちを殺す者たち。かれら不信仰者には、痛ましい懲罰を告げてやれ。

22 そのような特徴の者たちの行いは無効であり、それが現世と来世において役立つことはない。それはかれらがアッラーを信じていなかったからであり、かれらには懲罰から守ってくれる援助者などいない。

本諸節の功德:

- 地獄の懲罰から守られ、罪を赦される最大の原因の一つが、アッラーへの信仰と、その使徒の教えに従うことである。
- 最も偉大な証拠・真実は、アッラーの神性である。だからこそアッラーご自身も、天使たちも、知識ある者たちも、それによって証言している。
- 侵犯と嫉妬、争いは、真理から遠ざけられる最大の原因の一つである。

أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ أُوتُوا نَصِيبًا مِّنَ الْكِتَابِ يُدْعَوْنَ إِلَى كِتَابِ
 اللَّهِ لِيَحْكُمَ بَيْنَهُمْ ثُمَّ يَتَوَلَّوْنَ فَرِيقًا مِّنْهُمْ وَهُمْ مُّعْرِضُونَ ﴿٢٣﴾
 ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَالُوا لَن نَّمَسَّ النَّارَ إِلَّا أَيَّامًا مَّعْدُودَاتٍ ۗ
 وَعَدَّوْهُمْ فِي دِينِهِمْ مَا كَانُوا يَفْقَهُونَ ﴿٢٤﴾ فَكَيْفَ إِذَا جُمِعْتَهُمْ
 لِيَوْمٍ لَا رَيْبَ فِيهِ وَرُفِيتْ كُلُّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ وَهُمْ
 لَا يُظْلَمُونَ ﴿٢٥﴾ قُلِ اللَّهُمَّ مَلِكُ الْمَلِكِ تُوْتِي الْمَلِكِ مَن
 تَشَاءُ وَتَنْزِعُ الْمَلِكَ مِمَّنْ تَشَاءُ وَتَعَزُّ مَن تَشَاءُ وَتَذِلُّ مَن
 تَشَاءُ بِيَدِكَ الْخَيْرُ إِنَّكَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢٦﴾ تُوَلِّجُ اللَّيْلَ
 فِي النَّهَارِ وَتُوَلِّجُ النَّهَارَ فِي اللَّيْلِ وَتُخْرِجُ الْحَيَّ مِنَ الْمَيِّتِ
 وَتُخْرِجُ الْمَيِّتَ مِنَ الْحَيِّ وَتَرْزُقُ مَن تَشَاءُ بِغَيْرِ حِسَابٍ ﴿٢٧﴾
 لَا يَتَّخِذُ الْمُؤْمِنُونَ الْكَافِرِينَ أَوْلِيَاءَ مِن دُونِ الْمُؤْمِنِينَ
 وَمَن يَفْعَلْ ذَلِكَ فَلَيْسَ مِنَ اللَّهِ فِي شَيْءٍ إِلَّا أَن تَتَّقُوا مِنْهُمُ
 تُقَاتَةً وَيُحَذِّرْكُمْ اللَّهُ نَفْسَهُ ۗ وَاللَّهُ الْمَصِيرُ ﴿٢٨﴾ قُلِ
 إِن تَحْفَؤْا مَا فِي صُدُورِكُمْ أَوْ تُبْدُوهُ بِعَلْمِهِ اللَّهُ يَعْلَمُهُ
 مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ ۗ وَاللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢٩﴾

す。あなたはお望みになる者に、豊かな糧を授けるお方。」

〔23〕信者たちよ、不信仰者たちをあなたがたの親友としてはならない。信者をそっちのけにして、かれらを援助してはならない。そのようなことをする者は、アッラーとの縁を切り、アッラーからも縁を切られたのである。ただし、かれらの権力下にあり、自らの安全を恐れる場合は別である。そのような場合、内心を隠し、穏やかな振る舞いによって、かれらの害から身を守っても問題はない。アッラーはあなたがたに、**かれ**について注意するよう言っているのだから、**かれ**を恐れよ。罪によって、**かれ**の怒りに触れないようにせよ。復活の日の僕たちの帰り所はアッラーなのであり、そこでかれらは自分たちの行いの報いを受ける。

〔29〕預言者よ、言え。「あなたがたが不信仰者たちへの親愛の念のように禁じられていることを心の内に隠しても、公(おおやけ)にしようとしても、アッラーはそれをご存知である。**かれ**に隠せることなど、一切ない。**かれ**は天地にある全てをご存知であり、全てがお出来になるお方。**かれ**に出来ないことなどない。」

本諸節の功德:

- 真の成功と導きは、アッラーからのみである。そして知識はその量でも、いかに高い地位に就けるかということでもなく、アッラーからの成功を伴わない限り有益なものとはならない。
- 王権はアッラーにのみ属する。かれこそは与え、禁じ、威厳を与え、卑しめるお方。かれの御手にこそ全ての善はあり、全ての物事はかれに帰り行く。だから、かれ以外のものに頼んではならない。
- 不信仰者との親密さの危険性。アッラーはそのような者に対し、かれとの無縁さと、復活の日の清算を警告する。

〔23〕預言者よ、アッラーから律法書に関する知識の一部と、あなたの預言者性を示す証拠を与えられたユダヤ教徒たちの様子を、あなたは見ないのか?かれらの学者や指導者の一部は、かれらの中で意見が違ったときの裁決のため、アッラーの啓典である律法書への回帰を促されても、そこにある裁決が自分たちの私欲に沿わない場合、背を向けるのだ。しかし律法書に従っていると主張するならば、それによって裁決することが、最も相応しいのである。

〔24〕かれらが真理から背を向けたのは、復活の日、地獄の炎は自分たちに数日間しか触れることがなく、その後には天国に入れるのだと主張しているためである。かれらは自分たちが作った嘘や虚妄に騙されたのであり、アッラーとその宗教に不遜な態度を取ったのだ。

〔25〕では、かれらの後悔はいかなるものであろうか?復活の日に、**われら**がかれらを清算のために集める時、かれらの状況は最悪なものとなる。全ての者は、不当に善行を減らされることも、悪行を増やされることもなく、自分の行いに応じた報いを受ける。

〔26〕使徒よ、主を称えつつ、言え。「アッラーよ、**あなた**は現世と来世における全ての王権の所有者。**あなた**はお望みの者に王権を与え、お望みの者からそれを奪います。また、お望みの者の威厳を高め、お望みの者を卑しめます。その全ては、**あなた**の英知と公正さによるものです。**あなた**の御手には、全ての善があります。**あなた**は全てがお出来になるお方。

〔27〕**あなた**の御力を示すものとして、**あなた**は夜を昼に入れて昼の時間を伸ばし、昼を夜に入れて夜の時間を伸ばします。また、不信仰者から信者を生まれさせたり、種から作物を生じさせたりというように、死から生をもたらし、信者から不信仰者を生まれさせたり、雌鶏から卵を生まれさせたりというように、生から死をもたらしま

يَوْمَ تَجِدُ كُلُّ نَفْسٍ مَّا عَمِلَتْ مِنْ خَيْرٍ مُّحْضَرًا وَمَا عَمِلَتْ مِنْ سُوءٍ تَوَدُّ لَوْ أَنَّ بَيْنَهَا وَبَيْنَهُ أَمَدًا بَعِيدًا وَيَحَدَّرُ زُكُورُ اللَّهِ نَفْسَهُ وَاللَّهُ رَءُوفٌ بِالْعِبَادِ ﴿٣٥﴾ قُلْ إِنْ كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ فَاتَّبِعُونِي يُحْبِبْكُمُ اللَّهُ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٣٦﴾ قُلْ أَطِيعُوا اللَّهَ وَالرَّسُولَ فَإِنْ تَوَلَّوْا فَإِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْكَافِرِينَ ﴿٣٧﴾ * إِنَّ اللَّهَ اصْطَفَى آدَمَ وَنُوحًا وَآلَ إِبْرَاهِيمَ وَآلَ عِمْرَانَ عَلَى الْعَالَمِينَ ﴿٣٨﴾ ذُرِّيَّةً بَعْضُهَا مِنْ بَعْضٍ وَاللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ﴿٣٩﴾ إِذْ قَالَتِ امْرَأَتُ عِمْرَانَ رَبِّ إِنِّي نَذَرْتُ لَكَ مَا فِي بَطْنِي مُحَرَّرًا فَتَقَبَّلْ مِنِّي إِنَّكَ أَنْتَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿٤٠﴾ فَلَمَّا وَضَعَتْهَا قَالَتْ رَبِّ إِنِّي وَضَعْتُهَا أُنْثَىٰ وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا وَضَعْتَ وَلَيْسَ الذَّكَرُ كَالْأُنْثَىٰ وَإِنِّي سَمَّيْتُهَا مَرْيَمَ وَإِنِّي أُعِيذُهَا بِكَ وَذُرِّيَّتَهَا مِنَ الشَّيْطَانِ الرَّجِيمِ ﴿٤١﴾ فَتَقَبَّلَهَا رَبُّهَا بِقَبُولٍ حَسَنٍ وَأَنْبَتَهَا نَبَاتًا حَسَنًا وَكَفَّلَهَا زَكَرِيَّا كُلَّمَا دَخَلَ عَلَيْهَا زَكَرِيَّا الْمِحْرَابَ وَجَدَ عِنْدَ هَارِزِهَا قَائِلًا بِمِرْيَمَ إِنِّي لِكَ هَذَا قَالَتْ هُوَ مِنْ عِنْدِ اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ يَرِزُقُ مَنْ يَشَاءُ بِغَيْرِ حِسَابٍ ﴿٤٢﴾

30 復活の日、全ての者は自分が行った善行を、少しも減らされることなく目の当たりにする。行った悪行はといえば、自分とその間に長い時間の隔たりがあったならと望むが、そのような望みは役に立たない。アッラーはあなたに、**かれ**について注意するよう言っているのだから、罪を犯して**かれ**の怒りに触れてはならない。アッラーはその僕にお優しいが、だからこそかれらに注意と恐怖を促しているのだ。

31 使徒よ、言え。「もし本当にあなたがたがアッラーを愛しているのなら、わたしがもたらしたものに従え。そうすれば、あなたがたはアッラーの寵愛を手にし、罪を赦してもらえよう。アッラーは悔悟する僕(しもべ)に赦し深く、慈愛深いお方。」

32 使徒よ、言え。「ご命令に従い、禁止事項を避けることによって、アッラーとその使徒に従え。もしかれらが背を向けても、アッラーは**かれ**とその使徒の命令に背く不信仰者を、愛されはしない。」

33 アッラーはアダムをお選びになり、天使たちをかれにサジダさせた。また、ヌーフもお選びになり、地上への最初の使徒とした。また、イブラーヒームの一族もお選びになって、その子孫のうちに預言者性を留め、イムラーンの一族もまたお選びになった。かれら全員をお選びになり、同時代の者たちの中で特に徳の多い者としたのである。

34 かれら預言者たちと、その手法に則った子孫たちは、アッラーの唯一性と正しい行いにおける一系の子孫である。かれらはお互いに徳と高貴さを継承し合う。アッラーはその僕の言葉をお聞きになり、行いをご存知になるお方。かれは、お望みの者をお選びになる。

35 使徒よ、思い出させよ。イムラーンの妻、マルヤムの母が、こう言った時のことを。「主よ、わたしは自分のお腹の子を、**あなた**の御顔のために捧げられたものとするを誓います。この子を、**あなた**と、**あなた**の館に仕える専従者として。わたしから受け入れて下さい。**あなた**は祈りをお聞きになり、心の内をご存知のお方。」

36 こうして妊娠期間を終え、出産した時、彼女は残念がって言った(彼女は男児を授かることを望んでいた)。「主よ、わたしは女兒を産みました。」アッラーは彼女が産んだものをご存知のお方。男児は、その力や性質において、女兒のようではない。「わたしは彼女をマルヤムと名づけました。わたしは彼女とその子孫のために、シャイターンに対する、**あなた**のご加護を求めました。」

37 アッラーはその誓いを受け入れ、彼女をよく育てて下さった。そして彼女に正しい僕の心を受け、ザカリーヤの後見下に置いて下さった。彼女が崇拜する場所に行くたび、ザカリーヤは彼女のもとに良い糧があるのを見出した。かれは彼女に言った。「マルヤムよ、この糧はどこからか？」彼女は答えた。「この糧はアッラーからです。アッラーはお望みの者に、豊かな糧を授けて下さるのです。」

本諸節の功德:

- 理性的な者は、アッラーの存在の偉大さと、その懲罰の激しさゆえに、アッラーのご命令に反することに注意する。
- アッラーとその使徒に対する真の愛情の印は、命令や禁止においてイスラームの教えに従うことである。従うこともなく愛情を主張するだけでは、無益なのだ。
- アッラーはその英知と慈悲に基づいて、預言者や特別な僕をお選びになる。かれらに特別な印を授けることもある。

هُنَالِكَ دَعَا زَكَرِيَّا رَبَّهُ وَقَالَ رَبِّ هَبْ لِي مِنْ لَدُنْكَ ذُرِّيَّةً طَيِّبَةً إِنَّكَ سَمِيعُ الدُّعَاءِ ﴿٣٨﴾ فَنَادَتْهُ الْمَلَائِكَةُ وَهُوَ قَائِمٌ يُصَلِّي فِي الْمِحْرَابِ أَنَّ اللَّهَ يُبَشِّرُكَ بِيَحْيَى مُصَدِّقًا بِكَلِمَةٍ مِنَ اللَّهِ وَسَيِّدًا وَحَصُورًا وَنَبِيًّا مِنَ الصَّالِحِينَ ﴿٣٩﴾ قَالَ رَبِّ أَنَّى يَكُونُ لِي غُلَامٌ وَقَدْ بَلَغَنِيَ الْكِبَرُ وَامْرَأَتِي عَاقِرٌ قَالَ كَذَلِكَ اللَّهُ يَفْعَلُ مَا يَشَاءُ ﴿٤٠﴾ قَالَ رَبِّ اجْعَلْ لِي آيَةً قَالَ آيَتُكَ الْأَتَىٰ تَكْتُمُ النَّاسُ ثَلَاثَةَ أَيَّامٍ إِلَّا رَمْرَمًا وَذَكَرُ رَبِّكَ كَثِيرًا وَسَبِّحْ بِالْعَشِيِّ وَالْإِبْكَرِ ﴿٤١﴾ وَإِذْ قَالَتِ الْمَلَائِكَةُ يَا مَرْيَمُ إِنَّ اللَّهَ اصْطَفَاكِ وَطَهَّرَكِ وَاصْطَفَاكِ عَلَىٰ نِسَاءِ الْعَالَمِينَ ﴿٤٢﴾ يَا مَرْيَمُ اقْنُتِي لِرَبِّكِ وَأَسْجُدِي وَأَرْكَبِي مَعَ الرَّاكِعِينَ ﴿٤٣﴾ ذَلِكَ مِنْ أَنْبَاءِ الْغَيْبِ نُوحِيهِ إِلَيْكَ وَمَا كُنْتَ لَدَيْهِمْ إِذْ يُتْلَقُونَ أَقْلَامَهُمْ أَيُّهُمْ يَكْفُلُ مَرْيَمَ وَمَا كُنْتَ لَدَيْهِمْ إِذْ يَخْتَصِمُونَ ﴿٤٤﴾ إِذْ قَالَتِ الْمَلَائِكَةُ يَا مَرْيَمُ إِنَّ اللَّهَ يُبَشِّرُكِ بِكَلِمَةٍ مِنْهُ اسْمُهُ الْمَسِيحُ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ وَجِيهًا فِي الدُّنْيَا وَالْآخِرَةِ وَمِنَ الْمُقَرَّبِينَ ﴿٤٥﴾

③⑧ イムラーンの娘マルヤムが、超常的な形でアッラーから授かった糧を見たザカリーヤは、アッラーが自分に子供を授けてくれることを望んだ。かれは年配で、妻は不産女だった。かれは言った。「主よ、わたしによい子を授けて下さい。あなたは、あなたに祈る者の祈りを叶えて下さるお方。」

③⑨ かれが崇拜のための場所で礼拝をしている時、天使が呼びかけた。「アッラーがあなたに、ヤヒヤーという名前の子供が生まれるという吉報を、伝えておられる。かれはアッラーの御言葉により特別なかたちで創造された、アッラーからの御言葉である、マルヤムの子イーサーを信じ、その知識と崇拜行為において民の長となり、異性への欲望などを自らに禁じ、主の崇拜行為に明け暮れる者となる。かれは正しい預言者の一人となるのだ。」

④① ザカリーヤはヤヒヤーに関する天使たちからの吉報を聞いて、言った。「主よ、年寄りのわたしに、子供ができませんか？それにわたしの妻は、不産女なのです。」アッラーは言った。「アッラーはお望みのものを超常的に創造できるのである。アッラーは全てのことがお出来になり、その英知と知識に適った形でお望みのことをされるのだ。」

④② ザカリーヤは言った。「主よ、わたしの妻が子を身ごもる印を見せて下さい。」アッラーは言った。「それは何の問題もないにも関わらず、あなたが三日三晩、身振りでもしか話が出来なくなることである。だから昼の終わりと始めに、アッラーをよく称えよ。」

④③ 使徒よ、思い出させよ。天使たちがマルヤムに、こう言った時のことを。「アッラーは、あなたの美しい特性により、あなたをお選びになった。諸々の欠点から清めて下さり、同時代の全ての女性からお選びになった。」

④④ マルヤムよ、礼拝に長く立ち、あなたの主にサジダ(跪拝)しなさい。ルクウ(立礼)する正しい僕たちと共に、かれにルクウしなさい。

④⑤ ザカリーヤとマルヤムに関するこの話は、幽玄界の話の一部。使徒よ、これは、われらがあなたに啓示するものだ。あなたは学者や正しい者たちが、誰がマルヤムの養育に最適かで議論した時、そこに居合わせたわけではない。かれらはくじ引きをすることにし、その結果ザカリーヤが勝ったのである。」

④⑥ 使徒よ、天使たちがこう言った時のことを、思い出させよ。「マルヤムよ、アッラーはあなたに、父親なしに生まれる子供の吉報を伝える。『あれ』というアッラーの御言葉によって、それは男児となるのである。その名はマルヤムの子、マスイーフ・イーサー。現世と来世において偉大かつアッラーに近い者の一人なのだ。」

本諸節の功德:

- アッラーの、かれに親しい者たちに対するご配慮。かれはそういった者たちを悪から守り、祈りを叶えて下さる。
- マルヤムの徳。アッラーは全世界の女性から彼女をお選びになり、諸々の欠点から清め、祝福にあふれた女性とした。
- アッラーの恩恵が大きくなればなるほど、その感謝の義務も大きくなる。感謝は従順さ、ルクウ(立礼)、サジダ(跪拝)、その他諸々の崇拜行為によってなされる。
- 明確な証拠がないような意見の違いが起きた時、くじ引きすることの合法性。

46) また、かれは言葉を発するようになる前、幼子の頃にも、そして成熟してからも人々に話しかける。かれは宗教上でも現世のことで正しいことを語りかけるのであり、その言行において正しい者となる。」

47) マルヤムは夫もなしに子供を授かるということに驚き、言った。「どうしてわたしに子供ができましたか？わたしには男性が近づいたことなどありませんのに？」天使は言った。「アッラーは、あなたに父親もなくして子供をお創りになれるし、お望みのものをお創りになる。かれが何かをお望みになれば、『あれ』と言うだけで、それは存在するのだ。」

48) またかれは、かれに筆記と、正しい言行と成功をお授けになり、ムーサーに下した律法書と、かれに下すことになる福音書をお教えになる。

49) また、かれはかれをイスラエールの子孫に対する使徒とする。かれは、かれらにこう言う。「わたしは、あなたがたへのアッラーの使徒である。わたしには、自分が預言者であることを示す証拠がある。わたしが泥で鳥の形を造り、そこに息を吹き込めば、それはアッラーのお許しと共に、生きた鳥となる。また、わたしは生まれつきの盲人を治して眼が見えるようにし、癩患者を癒してその皮膚を治す。また、わたしは死者を生き返しもするが、それらは皆、アッラーのお許しによるものである。また、わたしはあなたがたの食事や、家の中に隠している食べ物について、告げ聞かせる。あなたがたに聞かせるこれらの人力を超えた偉大な物事のうちのには、わたしがあなたがたへの使徒であることを示す、明証があるのだ。もし、あなたがたが信仰を求め、明証を信じるといのであればだ。」

50) また、わたしは過去に下された律法書を実証し、あなたがたが禁じられている物事の一部を、あなたがたへの利便と軽減のために合法とする。わたしには、自分が語ることの正しさを示す、明証がある。だからアッラーに服従し、罪を避け、アッラーを恐れ、わたしに應じるのだ。

51) アッラーこそわが主であり、あなたがたの主。かれのみが真に従われるに値するお方。だから、かれのみに仕えよ。アッラーへの崇拜と恐れこそは、歪みのない道なのである。」

52) しかしイスラエールの子孫が不信仰に固執したために、イーサーは言った。「アッラーへと招くことにおいて、わたしを援助する者は誰か？」かれの純真な追従者たちは言った。「わたしたちが、アッラーの宗教への援助者です。わたしたちはアッラーを信じ、あなたに従いました。イーサーよ、わたしたちがアッラーに従い、その唯一性を信じる服従者であると証言して下さい。」

本諸節の功德:

- 書と筆記の重要性。アッラーはそれを他のものに先駆けて、言及している。
- アッラーは、人間の力を超えた証拠によって使徒を支持し、その正直さを証明する。
- イーサーは、イスラエールの子孫に対する律法の中の厳しい教えを、軽減した。これは、法規定の取り消しが起こることの根拠である。

وَيُكَلِّمُ النَّاسَ فِي الْمَهْدِ وَكَهْلًا وَمِنَ الصَّالِحِينَ ﴿٤٦﴾
 قَالَتْ رَبِّ أَنَّى يَكُونُ لِي وَلَدٌ وَلَمْ يَمَسِّنِي بَشَرٌ قَالَ كَذَلِكَ
 اللَّهُ يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ إِذَا قَضَىٰ أَمْرًا فَإِنَّمَا يَقُولُ لَهُ وَكُن فَيَكُونُ
 ﴿٤٧﴾ وَيُعَلِّمُهُ الْكِتَابَ وَالْحِكْمَةَ وَالتَّوْرَةَ وَالْإِنْجِيلَ
 ﴿٤٨﴾ وَرَسُولًا إِلَىٰ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَنِّي قَدْ جِئْتُكُمْ بِآيَاتٍ مِّن
 رَبِّكُمْ أَنِّي أَخْلَقُ لَكُمْ مِنَ الطِّينِ كَهَيْئَةِ الطَّيْرِ فَأَنْفُخُ
 فِيهِ فَيَكُونُ طَيْرًا بِإِذْنِ اللَّهِ وَأُبْرِئُ الْأَكْمَهَ وَالْأَبْرَصَ
 وَأُحْيِي الْمَوْتَىٰ بِإِذْنِ اللَّهِ وَأُنَبِّئُكُمْ بِمَا تَأْكُلُونَ وَمَا تَدَّخِرُونَ
 فِي بُيُوتِكُمْ إِن فِي ذَٰلِكَ لَآيَةٌ لِّكُمْ إِن كُنْتُمْ مُّؤْمِنِينَ ﴿٤٩﴾
 وَمُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيَّ مِنَ التَّوْرَةِ وَلِأَحْلِ لَكُمْ
 بَعْضَ الَّذِي حُرِّمَ عَلَيْكُمْ وَجِئْتُكُمْ بِآيَاتٍ مِّن رَّبِّكُمْ
 فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا ۗ ﴿٥٠﴾ إِنَّ اللَّهَ رَبِّي وَرَبُّكُمْ فَاعْبُدُوهُ
 هَذَا صِرَاطٌ مُّسْتَقِيمٌ ﴿٥١﴾ * فَلَمَّا أَحْسَسَ عِيسَىٰ مِنْهُمُ
 الْكُفْرَ قَالَ مَنْ أَنْصَارِي إِلَى اللَّهِ قَالَ الْحَوَارِيُّونَ نَحْنُ
 أَنْصَارُ اللَّهِ ءَأَمْنَا بِاللَّهِ وَأَشْهَدُ بِأَنَّا مُّسْلِمُونَ ﴿٥٢﴾

رَبَّنَا آمَنَّا بِمَا أَنْزَلْتَ وَاتَّبَعْنَا الرَّسُولَ فَاكْتُبْنَا مَعَ
الشَّاهِدِينَ ﴿٥٣﴾ وَمَكْرُؤًا وَمَكْرَأَةً وَاللَّهُ خَيْرُ الْمَكْرِي
نَ ﴿٥٤﴾ إِذْ قَالَ اللَّهُ لِيَعِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ كُونِي
مِنَ الَّذِينَ كَفَرُوا وَجَاعِلِ الَّذِينَ اتَّبَعُوكَ فَوْقَ الَّذِينَ
كَفَرُوا إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ ثُمَّ إِنَّكَ مَرْجِعُكُمْ فَأَحْكُمُ
بَيْنَكُمْ فِيمَا كُنْتُمْ فِيهِ تَخْتَفُونَ ﴿٥٥﴾ فَأَمَّا الَّذِينَ كَفَرُوا
فَاعَذِّبْهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا فِي الدُّنْيَا وَالْآخِرَةِ وَمَا لَهُمْ
مِن نَّاصِرِينَ ﴿٥٦﴾ وَأَمَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
فَيُؤْتِيهِمْ أَجْرَهُمْ وَلِلَّهِ لَا يُجِبُ الظَّالِمِينَ ﴿٥٧﴾ ذَلِكَ نَتَلُوهُ
عَلَيْكَ مِنَ الْآيَاتِ وَالذِّكْرِ الْحَكِيمِ ﴿٥٨﴾ إِنْ شِئْتَ
عِيسَى عِنْدَ اللَّهِ كَمَثَلِ آدَمَ خَلَقَهُ مِنْ تُرَابٍ ثُمَّ قَالَ لَهُ
كُنْ فَيَكُونُ ﴿٥٩﴾ الْحَقُّ مِنْ رَبِّكَ فَلَا تَكُنْ مِنَ الْمُمْتَرِينَ
﴿٦٠﴾ فَمَنْ حَاجَّكَ فِيهِ مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَكَ مِنَ الْعِلْمِ فَقُلْ تَعَالَوْا
نَدْعُ أَبْنَاءَنَا وَأَبْنَاءَكُمْ وَنِسَاءَنَا وَنِسَاءَكُمْ وَأَنْفُسَنَا
وَأَنْفُسَكُمْ ثُمَّ نَبْتَهِلْ فَنَجْعَلْ لَعْنَتَ اللَّهِ عَلَى الْكَاذِبِينَ ﴿٦١﴾

53 弟子たちは言った。「わたしたちは福音書を信じ、イーサーに従いました。だからわたしたちを、あなたとあなた使徒たちを信じる、真理の証言者として下さい。」

54 だがイスラエルの子孫の策謀者らは策謀し、イーサーの殺害を目論んだ。しかしアッラーがかれらに謀(はかりごと)をし、別の男をイーサーに似せたのである。アッラーよりも敵への謀(はかりごと)が厳しい者はおられない。

55 また、アッラーはイーサーにこのように語りかけた時にも、謀(はかりごと)をされた。「イーサーよ、われはあなたを死の前に召し、あなたの体と魂をわれのもとに上げてやろう。あなたを拒む者たちの汚れから、あなたを清め、かれらから遠ざけてやろう。また、あなたに従った者たちを真理の宗教の上に掲げ、あなたを拒んだ者たちの上へと復活の日まで上げてやろう。復活の日のあなた方の帰りはわれのもとであり、われはあなたがたが争っていたことについて、真理によって裁くのである。

56 あなたと、あなたがもたらした真理を拒んだ者については、われが厳しく罰してやろう。現世では殺害、捕囚といったもので、来世では地獄の懲罰によって、かれらを罰から守ってくれる援助者はない。

57 あなたと、あなたがもたらした真理を信じ、諸々の善行をした者は、その行いの十全なる報奨をアッラーから授けられよう。そこから差し引きされることは、一切ない。」なお、このマスイーフの追従者らに関する話は、マスイーフ自身がその到来を伝えている、預言者ムハンマドが遣わされる以前のこと。アッラーは不正者をお喜びにはならないが、アッラーに対して何かを並べて崇拜したり、アッラーの使徒たちを嘘つき呼ばわりしたりすることは最悪の不正である。

58 われらがあなたに語り聞かせるイーサーについての話は、あなたに下されたものの正しさを証明する明証の一つである。それは敬虔な者たちへの訓戒である。

59 イーサーの創造の例は、アダムを父も母もなしに、土から創造したことのようなものである。アッラーがそれに対して「人間となれ」と言った時、それはお望み通りになったのだ。なのにかれらは、イーサーが父親なしに創造されたことを、かれの神性の根拠と主張するのか。かれらはアダムが父も母もなしに創造されたにもかかわらず、人間であることを認めているのに。

60 イーサーに関して、疑念の余地のない真理は、あなたの主から下されたもの。だから疑う者となってはならない。真理の上に、堅固に立つのだ。

61 使徒よ、イーサーについてあなたに正しい知識がもたらされた後、ナジュラーンのキリスト教徒らが「イーサーはアッラーの僕などではない」と議論してきたら、言ってやれ。「来なさい。わたしたちとあなたがたの息子たち、わたしたちとあなたがたの女性たち、わたしたち自身とあなたがた自身の全員が集まり、嘘つきに呪いが降りかかるよう、祈ろうではないか。」

本諸節の功德:

- アッラーの宗教とかれに親しい者たちに対して策謀をする者に対し、アッラーは同様に謀(はかりごと)をされ、罰し給う。
- イーサーに関する正しい信仰、およびその信仰が理性と一致することの説明。かれのような創造は史上初ではなく、既にアダムは父も母もなしに創造されている。そのことはより驚愕すべきだが、全ての者はかれが人間であることを信じている。
- 争い合う者同士が、クルアーンに描写されている形式で、嘘つきに呪いが降りかかるという祈りを行うことの合法性。

إِنَّ هَذَا هُوَ الْقَصَصُ الْحَقُّ وَمَا مِنْ إِلَهٍ إِلَّا اللَّهُ وَإِنَّ اللَّهَ لَهُوَ
 الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٦٦﴾ فَإِنْ تَوَلَّوْا فَإِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ بِالْمُفْسِدِينَ
 ﴿٦٧﴾ قُلْ يَا أَهْلَ الْكِتَابِ تَعَالَوْا إِلَى كَلِمَةٍ سَوَاءٍ بَيْنَنَا
 وَبَيْنَكُمْ أَلَّا نَعْبُدَ إِلَّا اللَّهَ وَلَا نُشْرِكَ بِهِ شَيْئًا وَلَا يَتَّخِذَ
 بَعْضُنَا بَعْضًا أَرْبَابًا مِنْ دُونِ اللَّهِ فَإِنْ تَوَلَّوْا فَقُولُوا اشْهَدُوا
 بِأَنَّا مُسْلِمُونَ ﴿٦٨﴾ يَا أَهْلَ الْكِتَابِ لِمَ تُحَاجُّونَ فِي إِبْرَاهِيمَ
 وَمَا أَنْزَلْنَا التَّوْرَةَ وَالْإِنْجِيلَ إِلَّا مِنْ بَعْدِهِ أَفَلَا تَعْقِلُونَ
 ﴿٦٩﴾ هَذَا نَسَبُهُمْ هَؤُلَاءِ حَبَجْتُمْ فِيمَا لَكُمْ بِهِ عِلْمٌ فَلِمَ
 تُحَاجُّونَ فِيمَا لَيْسَ لَكُمْ بِهِ عِلْمٌ وَاللَّهُ يَعْلَمُ وَأَنْتُمْ
 لَا تَعْلَمُونَ ﴿٧٠﴾ مَا كَانَ إِبْرَاهِيمَ يَهُودِيًّا وَلَا نَصْرَانِيًّا
 وَلَكِنْ كَانَ حَنِيفًا مُسْلِمًا وَمَا كَانَ مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿٧١﴾
 إِنَّ أَوْلَى النَّاسِ بِإِبْرَاهِيمَ لَلَّذِينَ اتَّبَعُوهُ وَهَذَا النَّبِيُّ وَالَّذِينَ
 ءَامَنُوا وَاللَّهُ وَلِيُّ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٧٢﴾ وَدَّتْ طَائِفَةٌ مِّنْ أَهْلِ الْكِتَابِ
 لَوْ يُضِلُّوكُمْ وَمَا يُضِلُّونَ إِلَّا أَنْفُسَهُمْ وَمَا يَشْعُرُونَ ﴿٧٣﴾ يَا أَهْلَ
 الْكِتَابِ لِمَ تَكْفُرُونَ بِآيَاتِ اللَّهِ وَأَنْتُمْ تَشْهَدُونَ ﴿٧٤﴾

62 イーサーに関して、あなたに啓示されたことは真理の知らせである。唯一のアッラー以外、真に崇拝に値するものはない。かれはその王権において偉大なお方であり、その采配、ご命令、創造において英知あるお方である。

63 もしかれらがあなたの伝える知らせに背を向けるのなら、それはかれらの悪によるものである。アッラーは地上で悪を行う者をご存知になり、それに報われるお方。

64 使徒よ、言え。「ユダヤ教徒とキリスト教徒よ、わたしたち全員が共有する正義の言葉のもとに結集しよう。つまり、わたしたちはアッラーを崇拝対象として唯一化し、いかなるものもかれに並べて崇拝したりはしない。そしてお互いを、アッラーをよそに崇拝されるような主とはしない、という言葉のもとに。」そして、あなたがたが招く真理にかれらが背くのであれば、信者たちよ、言うのだ。「わたしたちがアッラーに従う者であることを、証言せよ。」

65 「啓典の民よ、どうしてイブラーヒームの民に関して、あなたがたは議論するのか？ユダヤ教徒はかれがユダヤ教徒であったと、キリスト教徒はかれがキリスト教徒であったと主張するが、ユダヤ教もキリスト教も、イブラーヒームの死後に長い時間が過ぎてから現われたのではないか。あなたがたは、あなたがたの主張の間違いを理解しないのか。

66 啓典の民よ、あなたがたは、自分たちの宗教と啓示について知識があることにおいて、預言者に関する議論をしている。それなのに、なぜあなたがたは、あなたがたの啓典にも預言者たちによっても取りざたされていない、イブラーヒームとその宗教に関することで議論するのか。アッラーこそは真実をご存知のお方で、あなたがたは知らないのである。」

67 イブラーヒームは、ユダヤ教徒でもキリスト教徒でもなく、誤った宗教から遠ざかる者であった。アッラーに帰順し、かれだけを崇拝する一神教徒であり、多神教徒ではなかった。

68 イブラーヒームに帰属するのに最もふさわしいのは、イブラーヒームが当時伝えたことを信じる者たちであり、この預言者ムハンマドと、その共同体の信者たちである。アッラーは信者たちへの援助者、保護者である。

69 信者たちよ、ユダヤ教徒とキリスト教徒の学者たちは、あなたがたがアッラーによって導かれた真理から迷い去ることを望んでいる。しかしかれらは自分自身を迷わせるだけ。信者を迷わせようと努力することは、自らの迷いを増加させるだけである。かれらは自分たちの行為の結末を知らない。

70 ユダヤ教徒とキリスト教徒よ、なぜあなたがたは、自分たちに下されたアッラーの印と、ムハンマドの預言者性の証拠を否定するのか。あなたがたはそれを、自分たちの啓典の中にある真理だと証言しているのに。

本諸節の功德:

- 天啓宗教のメッセージは全て、正義の言葉において一致している。アッラーの唯一性という教えと、かれに何かを並べることの禁止である。
- 歴史に関する知識の重要性。それは時に、根拠の無い主張に対する強い根拠となることがある。
- イブラーヒームに最も似つかわしいのは、かれの宗教を信奉する者。かれに反しているのに、帰属しているという主張は無意味である。
- 一連の章句は、この共同体における信者たちを迷わせようとする、啓典の民の嫉妬と執着心を示している。

يَا أَهْلَ الْكِتَابِ لِمَ تَلْبِسُونَ الْحَقَّ بِالْبَاطِلِ وَتَكْتُمُونَ الْحَقَّ
 وَأَنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٧٦﴾ وَقَالَتْ طَافِيَةٌ مِّنْ أَهْلِ الْكِتَابِ ءَامِنُوا
 بِالَّذِي أُنزِلَ عَلَى الَّذِينَ ءَامَنُوا وَجَهَ النَّهَارَ وَكُفَرُوا ءَاخِرَهُ
 لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٧٧﴾ وَلَا تُؤْمِنُوا إِلَّا لِمَنْ تَبِعَ دِينَكُمْ قُلْ إِنَّ
 الْهُدَىٰ هُدَىٰ اللَّهِ أَنْ يُؤْتَىٰ أَحَدٌ مِّثْلَ مَا أُوتِيْتُمْ أَوْ يُحَاجُّوكُمْ
 عِنْدَ رَبِّكُمْ قُلْ إِنَّ الْفَضْلَ بِيَدِ اللَّهِ يُؤْتِيهِ مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ
 وَاسِعٌ عَلِيمٌ ﴿٧٨﴾ يَخْتَصُّ بِرَحْمَتِهِ مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ
 الْعَظِيمِ ﴿٧٩﴾ * وَمَنْ أَهْلَ الْكِتَابِ مَنَ إِنْ تَأْمَنَهُ بِقِنطَارٍ
 يُؤَدُّهُ إِلَيْكَ وَمِنْهُمْ مَنَ إِنْ تَأْمَنَهُ بِيَدِنَارٍ لَا يُؤَدُّهُ إِلَيْكَ
 إِلَّا مَا دُمَّتْ عَلَيْهِ قَائِمًا ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَالُوا لَيْسَ عَلَيْنَا فِي
 الْأُمِّيِّينَ سَبِيلٌ وَيَقُولُونَ عَلَى اللَّهِ الْكِبْرَ وَهُمْ يَعْلَمُونَ
 ﴿٨٠﴾ بَلَىٰ مَنْ أَوْفَىٰ بِعَهْدِهِ ءَاتَتْهُ فَإِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُتَّقِينَ ﴿٨١﴾
 ﴿٨٢﴾ إِنَّ الَّذِينَ يَشْتَرُونَ بِعَهْدِ اللَّهِ وَأَيْمَانِهِمْ ثَمَنًا قَلِيلًا
 أُولَٰئِكَ لَا خَلْقَ لَهُمْ فِي الْآخِرَةِ وَلَا يُكَلِّمُهُمُ اللَّهُ وَلَا يَنْظُرُ
 إِلَيْهِمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ وَلَا يُزَكِّيهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٨٣﴾

71 啓典の民よ、あなたがたはなぜ、あなたがたに下された啓典の中の真実と、あなたがたの虚妄を混ぜ合わせ、真理と導きを隠すのか。そこにはムハンマドの預言者性の正しさも含まれており、あなたがたは真理と虚妄、導きと迷いを識別できるというのに。

72 ユダヤ教徒の学者の一人は言った。「信者たちに下されたクルアーンを、昼の始まりに表面的に信じよ。そして昼の終わりには、それを否定せよ。恐らくかれらは、あなたがたが信仰後にそれを否定することで疑念を抱き、『かれらはわたしたちよりも啓典に通じているのに、それを拒否した』と言ってそこから戻って来るだろう。」

73 また、かれらはこうも言った。「あなた方の宗教に従った者以外、信用してはならない。」使徒よ、言え。「真理への導きとは、アッラーのお導きであり、あなた方が頑固にしがみついているものではない。あなた方は、あなた方が授かったような徳が他の者に与えられたり、かれらが反論してきたりすることを恐れている。」使徒よ、言え。「徳はアッラーのもとにあり、かれはお望みの者にそれをお授けになる。その徳はある民に限定されたものではない。アッラーはその徳が広大であり、それに値する者をご存知のお方。」

74 かれはお望みになる者に、特別なお慈悲を与えられる。そしてそのような者に、導きや、預言者の使命や、様々な賜物をお授けになる。アッラーは、尽きることのない徳の所有者。

75 啓典の民の中には、たくさんの財産を預けたとしても、預かり物を返す者がいる。他方、わずかな財産を預けても、しつこくせがまなければ、返さない者もいる。それは「アラブ人の財産を不当に貪っても、私たちに罪はない。アッラーはそれをお許しになったのだから」という、かれらの悪い考えのためである。かれらは知りつつ、このような嘘をつくのである。

76 事はかれらが考えるような次第ではない。アッラーとその使徒への信仰という契約と、人々との契約を全うし、アッラーのご命令と禁止事項においてアッラーを畏れるならば、アッラーはそのような者たちを愛で給う。そして最高のご報奨をお授け下さる。

77 啓典の中で示されたこと、使徒が伝えることに従えというアッラーのご命令、アッラーとの契約を全うするという誓いを取って替える者は、それを現世のわずかな代償と交換しているのだ。かれらに来世の取り分はない。審判の日アッラーは、かれらが喜ぶ形でかれらに語りかけることも、かれらに慈悲のまなざしを投げかけることもなく、かれらの罪や不信仰という穢れから浄めることもない。かれらには痛ましい懲罰がある。

本諸節の功德:

- 啓典の民の学者の中には、自分たちの宗教の信徒を騙す者もいる。そのような者が、かれらの啓典や使徒たちが示している真理を説明することはない。
- 不信仰者のやり口として、宗教の内側から疑念をかき立てるという方法がある。
- アッラーは豊かな贈与者。その恩恵をお望みの者に与えれば、その公正さと英知ゆえにお望みの者から阻みもする。そしてかれの恩恵は、かれへの服従でしか得られない。
- アッラーへの信仰と、かれとの契約の遵守に代わる現世的な物事は、たとえ大きく見えたとしても、来世の報奨と居場所に比べればわずかであるに足りないものである。

وَإِنَّ مِنْهُمْ لَفَرِيقًا يَلْوُنَ أَلْسِنَتَهُمُ بِالْكِتَابِ لِتَحْسَبُوهُ
 مِنَ الْكِتَابِ وَمَا هُوَ مِنْ الْكِتَابِ وَيَقُولُونَ هُوَ مِنْ
 عِنْدِ اللَّهِ وَمَا هُوَ مِنْ عِنْدِ اللَّهِ وَيَقُولُونَ عَلَى اللَّهِ الْكُذِبَ
 وَهُمْ يَعْلَمُونَ ﴿٧٨﴾ مَا كَانَ لِبَشَرٍ أَنْ يُؤْتِيَهُ اللَّهُ الْكِتَابَ
 وَالْحُكْمَ وَالنَّبُوءَةَ ثُمَّ يَقُولَ لِلنَّاسِ كُونُوا عِبَادًا لِي مِنْ
 دُونِ اللَّهِ وَلَكِنْ كُونُوا رَبَّيْنَ بِمَا كُنْتُمْ تُعَلِّمُونَ
 الْكِتَابَ وَبِمَا كُنْتُمْ تَدْرُسُونَ ﴿٧٩﴾ وَلَا يَأْمُرُكُمْ أَنْ
 تَتَّخِذُوا الْمَلَائِكَةَ وَالنَّبِيِّينَ أَرْبَابًا أَيَأْمُرُكُمْ بِالْكُفْرِ بَعْدَ
 إِذْ أَنْتُمْ مُسْلِمُونَ ﴿٨٠﴾ وَإِذْ أَخَذَ اللَّهُ مِيثَاقَ النَّبِيِّينَ لَمَآءَ آتَيْتُكُمْ
 مِنْ كِتَابٍ وَحِكْمَةٍ ثُمَّ جَاءَكُمْ رَسُولٌ مُصَدِّقٌ لِمَا
 مَعَكُمْ لَتُؤْمِنُنَّ بِهِ وَلَتَنْصُرُنَّهُ قَالَ أَأَقْرَرْتُمْ وَأَخَذْتُمْ
 عَلَىٰ ذَٰلِكُمْ إِصْرِي قَالُوا أَقْرَرْنَا قَالَ فَاشْهَدُوا وَأَنَا مَعَكُمْ
 مِنَ الشَّاهِدِينَ ﴿٨١﴾ فَمَنْ تَوَلَّى بَعْدَ ذَٰلِكَ فَأُولَٰئِكَ هُمُ
 الْفَاسِقُونَ ﴿٨٢﴾ أَغْيَرَ دِينَ اللَّهِ يَعْجُونَ وَلَهُ أَسْمَاءٌ مِنْ فِي
 السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ طَوْعًا وَكَرْهًا وَإِلَيْهِ يُرْجَعُونَ ﴿٨٣﴾

78 ユダヤ教徒の中には、アッラーから下された律法書の
 内容ではないものを、舌をねじ曲げて読む一団がいる。
 それは、かれらが律法書を読んでいるとあなたに思わせる
 ためだが、実はそれは律法書の一部ではなく、かれら
 のアッラーに対する嘘である。かれらは言う。「わたした
 ちが読んでいるのは、アッラーから下ったものだ。」しか
 し、それはアッラーから下ったものではない。かれらはア
 ッラーに対して嘘をついている。しかも自分たちがアッ
 ラーとその使徒に対して嘘をついていることを、知っている
 のだ。

79 アッラーから啓典を授けられ、理解を与えられ、預言
 者として選ばれた人間が、その後人々に対して「アッラー
 ではなく、わたしの僕となりなさい」などと言うべきでは
 ない。しかし、こう言うべきなのだ。「行動を伴う学者とな
 り、人々の教育者、正しい者となりなさい。啓典を人々に
 教え、あなたがたがそれを暗記と理解をもって学んでい
 たことによって。」

80 またかれらは、天使たちや預言者たちを、アッラーを
 よそに主として崇拜することを命じるべきではない。一
 旦アッラーに服従した後、**かれ**があなたがたにアッラー
 に対する不信仰を命じることなど、あるはずもないのだ。

81 使徒よ、アッラーが預言者たちにこのように言って、
 堅い契約を取った時のことを思い出させよ。「**われ**が
 あなたがたに啓典を下し、英知を教え、それからあなたが
 たが高い地位に達した後、使徒ムハンマドがわが御許か
 らあなたがたのもとにやって来て、あなたがたの啓典と
 英知を確認したら、かれのことを信じよ。そしてかれに従
 い、援助せよ。預言者たちよ、あなたがたはこのことを承
 認したか。」かれらは応えた。「はい、承知しました。」ア
 ッラーは言った。「あなたがた自身と、あなたがたの民対
 して証言しなさい。**われ**もまたあなたがたと共に、あなた
 がたとかれらに対する証人となるう。」

82 しかしアッラーとその使徒の証言という、この堅い契約に背を向けた者たちは、アッラーの宗教と**かれ**への服従から逸脱してし
 まったのである。

83 アッラーの宗教と**かれ**への服従から逸脱してしまった者たちは、アッラーがその僕たちに選んだ、イスラーム以外のものを選ん
 だのか。天地にある全ての被造物は、**かれ**に服従しているというのに。それらの者たちは信者であれば自発的に、不信仰
 者であっても嫌々ながら服従しているのである。審判の日、全ての被造物の帰り所は**かれ**の御許であり、そこで清算と報いを受け
 るのである。

本諸節の功德:

- ユダヤ教徒の学者たちの迷妄と、アッラーの御言葉の改変におけるかれらの策謀。そしてその改変をアッラーからのものだと主張する、人々に対する嘘。
- アッラーの預言者の宗教に属すると主張する者は誰でも、ムハンマドを信仰しなければ、アッラーとの契約を反故にしたことになる。
- 最高位の者とは、知識と行動を両立し、そこにおける人々への教育を重んじる学者たちである。
- 最大の迷妄とは、全ての被造物が服従するアッラーの宗教に、背を向けることである。

قُلْ ءَامَنَّا بِاللّٰهِ وَمَا أُنزِلَ عَلَيْنَا وَمَا أُنزِلَ عَلَىٰ إِبْرٰهِيْمَ
وَإِسْمٰعِيْلَ وَإِسْحٰقَ وَيَعْقُوبَ وَالْأَسْبَاطِ وَمَا أُوتِيَ مُوسَىٰ
وَعِيسَىٰ وَالنَّبِيُّونَ مِنْ رَبِّهِمْ لَا نَفَرِقُ بَيْنَ أَحَدٍ مِّنْهُمْ
وَنُحْنُ لَهُ مُسْلِمُونَ ﴿٨٤﴾ وَمَنْ يَبْتَغِ غَيْرَ الْإِسْلَامِ دِينًا فَلَنْ
يُقْبَلَ مِنْهُ وَهُوَ فِي الْآخِرَةِ مِنَ الْخٰسِرِينَ ﴿٨٥﴾ كَيْفَ
يَهْدِي اللّٰهُ قَوْمًا كَفَرُوا بَعْدَ إِيمٰنِهِمْ وَشٰهَدُوا أَنَّنَا
الرَّسُولُ حَقٌّ وَجَاءَهُمُ الْبَيِّنٰتُ وَاللّٰهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ
الظَّالِمِينَ ﴿٨٦﴾ أُولَٰئِكَ جَزَاؤُهُمْ أَنَّ عَلَيْهِمْ لَعْنَةَ اللّٰهِ
وَالْمَلٰئِكَةِ وَالنَّاسِ أَجْمَعِينَ ﴿٨٧﴾ خٰلِدِينَ فِيهَا لَا يَخْفَىٰ
عَنْهُمْ الْعَذَابُ وَلَا هُمْ يَنْظُرُونَ ﴿٨٨﴾ إِلَّا الَّذِينَ تَابُوا مِنْ
بَعْدِ ذٰلِكَ وَأَصْلَحُوا فَإِنَّ اللّٰهَ غَفُورٌ رَّحِيْمٌ ﴿٨٩﴾ إِنَّ الَّذِينَ
كَفَرُوا بَعْدَ إِيمٰنِهِمْ ثُمَّ أَزَادُوا كُفْرًا لَّنْ نَّقْبَلَ تَوْبَهُمْ
وَأُولَٰئِكَ هُمُ الصَّٰلُونَ ﴿٩٠﴾ إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا وَمَاتُوا وَهُمْ
كُفَرًا فَلَنْ يُقْبَلَ مِنْ أَحَدِهِمْ مِّلءُ الْأَرْضِ ذَهَبًا وَلَوْ
أَفْتَدَىٰ بِهِ ؕ أُولَٰئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ وَمَا لَهُمْ مِنْ نَّاصِرِينَ ﴿٩١﴾

84) 使徒よ、言え。「わたしたちはアッラーを崇拜される存在として信じ、かれが命じたことに従った。また、かれがわたしたちに下した啓示と、かれがイブラーヒーム、イスマーイール、イサーク、ヤアクーブに下したものを信じた。そして、かれがヤアクーブの子孫の預言者たちに下したものと、ムーサー、イーサー、および全ての預言者たちが主から授かった啓典と章句も。わたしたちはその一部の者は信じ、他の者は信じない、といった差別をつけない。わたしたちはアッラーにのみ従う。」

85) イスラームはアッラーがお喜びになる宗教であり、それ以外のものを宗教とする者の宗教を、アッラーは受け入れない。かれらは来世で地獄に入り、自分自身を損ねることになる。

86) どうしてアッラーが、アッラーと使徒ムハンマドを一旦真理であると証言し、数々の明証を受け取った後に不信仰になった民を、信仰へと導こうか。アッラーは導きの代わりに迷妄を選ぶような不正の民を、かれへの信仰へと導いては下さらない。

87) 迷妄を選んだ不正者たちの報いは、アッラーと人々と天使たち全員の呪いが降りかかることである。かれらはアッラーのお慈悲から遠ざけられる者たちである。

88) かれらは地獄に永遠に留まり、そこから出ることはない。懲罰が軽減されることはなく、悔悟や言い訳の猶予を与えられることもない。

89) ただし、不信仰と不正の後、アッラーに立ち返り、行いを正す者は別である。アッラーは悔悟する僕に対して赦し深く、慈悲深いお方。

90) 信仰の後に不信仰となり、死を目の当たりにするまでその状態が続けた者は、死の間に悔悟しても、すでに時を逸したためその悔悟が受け入れられることはない。

い。かれらは、アッラーへと続くまっすぐな道から迷い去ってしまった。

91) 不信仰のまま死を迎えた者たちは、地獄から解放されるために大地ほどの重さの金塊を施したとしても、受け入れられない。かれらには痛烈な懲罰があり、審判の日には守ってくれる援助者もない。

本諸節の功德:

- アッラーが遣わした全ての預言者たちと、かれが下した全ての啓典を、差別なく信仰する必要性。
- ムハンマドが遣わされた後、アッラーがイスラームという宗教以外受け入れることはない。
- 迷妄にしがみ続けた者は、悔悟と導きから阻まれることによって、アッラーから罰される可能性がある。
- 死が訪れるか、または太陽が西から昇る時まで、悔悟の扉は開かれている。それ以降、悔悟は受け入れられない。
- 正しい行い以外、審判の日に人間を地獄から救うものはない。財産がたとえ大地一杯あったとしても、少しも役立たない。